

学報

NARA MEDICAL UNIVERSITY

Special Feature

vol. **91** 2025
冬号

理事長・学長からのメッセージ vol.34

渡辺謙さんを迎えて、
MBTみんなで守るいのちの映画祭を開催しました

MBT みんなで守るいのちの
第4回
映画祭



渡辺謙さん舞台挨拶



Contents

特集

理事長・学長からのメッセージ vol.34	3
「第4回MBT みんなで守るいのちの映画祭」を開催しました	8
研究紹介	10
先端医学研究支援機構だより	12
MBT 研究所だより (第35報)	13
国際交流センターだより vol.18	14
図書館だより	16
働き方改革だより	17
未来への飛躍基金だより	18
看護部の紹介	19

Topics

Campus News

診療における生成系AI 利用についての現状と課題	20
奈良県立医科大学健康フェア 2024 を開催しました	21
軽音楽部による院内コンサートを開催しました	21
全日本医科学学生体育大会王座決定戦でも活躍！	21
令和6年度臨床PBL 症例報告会を開催しました	22
奈良医大発ベンチャーを認定しました	22
サンライズジャパンノンペン病院との包括協定を締結しました	23
けいはんなプラザで上映会を開催しました	24
奈良県防災総合訓練にMBT ブースを出展しました	24
着物でジャズ今井町 2024 を開催しました	24
ならコープにて「フレイルチェック」を行いました	25
MBT 研究所運営会議を開催しました	25
令和6年度奈良県立医科大学大学祭白檀生祭を開催しました	25
Challenge 万博に出展しました	25
同志社女子大学・奈良県立医科大学学術交流に関する包括協定に基づく合同講演会を開催しました	26
第6回連携登録医のつどいを蔽櫃会館で開催しました	26
MBT 実証実験説明会を実施しました	27
第8回臨床研究 県民公開講座を開催しました	27
医学部医学科「白衣授与式」を行いました	27
奈良先端科学技術大学院大学見学会を開催しました	27
イノベーションストリーム KANSAI8.0 に出展しました	28
2024“よい仕事おこし” フェアへ出展しました	28
中和保健所と連携した災害医療訓練を実施しました	28
第8回日本循環器学会基礎研究フォーラムで発表しました	29
人材交流在宅看護教育プログラムの履修証明書を授与しました	29
第35回日本小児整形外科学会学術集会で発表しました	29
第1回ホスピタルラボを開催しました	29
令和6年度第1回キャンパスミーティングを開催しました	30
高大連携教育を推進しています	30

Winner Report

日本小児麻酔学会学術賞 (里古光子賞) を受賞しました	30
藤村吉博名誉教授が昭和天皇記念学術賞を受賞しました	31
第45回日本食品微生物学会学術総会 優秀発表賞	32
第24回CRCと臨床試験のあり方を考える会議において優秀演題賞を受賞しました	32
イグ・ノーベル生理学賞を受賞しました	32
第121回日本消化器病学会近畿支部例会で専修医奨励賞を受賞しました	32
第35回日本急性血液浄化学会学術集会でBest Presentation Awardを受賞しました	33
第65回日本脈管学会学術総会で臨床部門の最優秀演題賞を受賞しました	33
日本プライマリ・ケア連合学会新家庭医療専門医試験 優秀賞受賞	33
武田科学振興財団研究助成金を受賞しました	33
日本臨床麻酔学会第44回大会で最優秀演題賞を受賞しました	34
第69回日本口腔外科学会総会・学術大会において口演発表賞を受賞しました	34
令和6年度奈良県医師会学術奨励賞を受賞しました	34
第29回奈良新聞文化賞を受賞しました	34
令和6年度 外部資金獲得状況	35

寄附者ご芳名

「未来への飛躍」基金にご協力いただきありがとうございました	39
メディア掲載情報	40
編集後記	40

開学80周年を迎えてさらなる飛躍へ

理事長・学長 細井 裕司

本学は奈良県の評価委員会の評価だけでなく、社会から高い評価を受けています。奈良医大の成果が新聞、テレビなどの多くのマスメディアに多数取り上げられていることから、全国における存在感が確実に大きくなっていることがわかります。これも、教職員、同窓会員など関係のすべての方々のご理解とご協力によるものと感謝申し上げます。

本学は開学80周年を迎え、5月24日には山下真奈良県知事、Santa Ono ミシガン大学学長を迎えて、80周年、新キャンパス開設の記念式典を挙行します。80周年を機にさらなる飛躍を目指します。

本稿では、以下の図(1～16)をご覧くださいながら、最近の出来事などのいくつかを振り返ることによって、その飛躍への助走を確かめたいと思います。

図1

一般社団法人 奈良先端医工科学連携機構

2024年12月25日法人設立

奈良県立医科大学と奈良先端科学技術大学院大学連携のめざすもの

(1) 医工学融合分野におけるイノベーション促進・人材育成拠点形成の取組み

連携を強化することは、臨床・医療の現場と先端科学技術の研究室を密接に連携させ、医工学融合研究の高度化・社会実装を加速する。さらに、医工学融合の新分野を切り拓く研究者やイノベーター、および高度医療専門人材を育成する新規教育プログラムを展開する。

- AIなど急速に変容する先端技術をリアルタイムで取り入れるアジャイル研究開発で取り組むDigital Medicine、Molecular Medicineの拠点形成とこれを基盤とする産学連携
- 理工学を融合した次世代の医科学や、健康・福祉分野の先端科学など、総合的に取り組む新しい大学院教育の創出
- 先端科学技術等の講義による医学部教養教育の充実による、次世代の医療を担う医師・看護師の養成
- 産学連携に基づいた関連企業の社会人教育
- ICT技術研究を活かした奈良県南部過疎地医療への新しい取組みとその全国への横展開

(2) リサーチトランスフォーメーション (RX) への対応

RXは、デジタルトランスフォーメーション (DX) 等を駆動力として研究開発活動の方法論の革新を目指すものであるが、そのためにはフィジカル空間とサイバー空間との連携が、研究の高度化・社会実装の迅速化に極めて重要である。両大学の連携によって、医工RXを強力に推進できる。

本学と奈良先端大は、2009年に相互協力に関する協定を締結しました。2018年横矢学長を訪ね連携強化を提案し、連携の具体策の協議が開始されました。以後両大学の多くの教室間で活発に共同研究が行われるようになってきました。東京では東京工業大学と東京医科歯科大学が2024年10月に統合し、東京科学大学 (Science Tokyo) が誕生しました。奈良医大と奈良先端大の連携がより一層強固になれば、東京科学大学に匹敵する成果が生み出せると考え、塩崎学長ら奈良先端大の方々や文科省と協議を重ねた結果、2024年12月25日「一般社団法人 奈良先端医工科学連携機構」を設立しました。今後は本年3月をめどに文部科学大臣から「大学等連携推進法人」の認可を得る予定です。図1に本法人のめざすものを記載しました。

図2

新キャンパス概要



実習研究棟

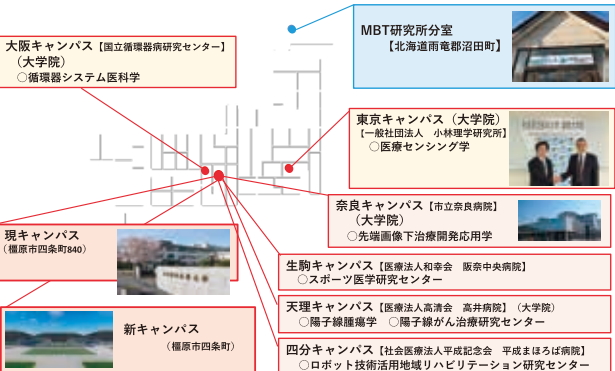
事業概要
令和元年予備設計～令和4年度 建築工事開始 ～令和6年11月末竣工
敷地 約12ha 建物の延べ床面積 約3万㎡
総事業費 約191億円
費用負担 県 100%

いよいよ新キャンパスが本年4月1日に開設されます。図2に事業概要を示します。

図3

9キャンパス (名称は仮称)

【注】2014年以降に橿原市外に7つのキャンパスを設置



- 大阪キャンパス (国立循環器病研究センター) (大学院)
○循環器システム医科学
- MBT研究所分室 (北海道雨竜郡沼田町)
- 東京キャンパス (大学院) (一般社団法人 小児理学研究所)
○医療センシング学
- 奈良キャンパス (市立奈良病院) (大学院)
○先端画像治療開発応用学
- 現キャンパス (橿原市四条町840)
- 生駒キャンパス (医療法人和幸会 阪奈中央病院)
○スポーツ医学研究センター
- 天理キャンパス (医療法人高津会 高井病院) (大学院)
○陽子線腫瘍学 ○陽子線がん治療研究センター
- 四分キャンパス (社会医療法人平成記念会 平成まほろば病院)
○ロボット技術活用地域リハビリテーション研究センター
- 新キャンパス (橿原市四条町)

2014年学長に就任して以降、全国に奈良医大のキャンパスを設置して参りました。新キャンパスの開設により、奈良医大のキャンパスは9つになります。図3に全国のキャンパスの所在地を示します。すべて仮称ですが、現キャンパス、新キャンパスの他に、北海道、東京、大阪、奈良県内に4カ所のキャンパスがあります。そのうちの、4つのキャンパスには大学院を設置しています。なお、現キャンパスと新キャンパス以外のキャンパスは設置先の費用負担で運営しています。

図4

奈良県立医科大学大学院看護学研究科 博士後期課程

大学院看護学研究科は、2024年4月に開設した博士後期課程の教育を開始
 奈良県で唯一の博士(看護学)を授与できる課程
 研究者・教育者の育成、高度な実践能力と創造的な研究能力に基づいた社会
 貢献を目的とします



図5

新A棟の整備の概要

- 事業概要
 - ・医大施設の老朽化、敷地の狭小化及び期間災害拠点病院としての機能強化等への対応の為に現A棟の外來機能に加え、医局棟や大学本部棟等の整備を行う。
 - ・新外來棟は、教育研修棟、スキルスラボ棟、看護学科旧棟を除却し、その跡地に新築するが、総事業費の抑制のため、現A棟や看護学科新棟など、一定の耐震性能を有する既存建物は、リニューアル工事のうえ、有効活用する。
 - ・新A棟については、令和13年度中の供用開始を目指す。
- 事業費
 - 建設事業費 約512億円、
 - 病院事業債の償還利子を含む総事業費 約683億円
 - うち県負担額 346億円
 - 医大負担額 337億円 (R13~R43の30年間で償還)
 - 11~12億円/年
- 主な整備内容 既存ABCE棟のリニューアルによる整備も含む
 - ディサージャリー 3室新設、オベ室 3室増、ICU 4床増
 - 感染症・災害対応用ベッド 73床新設、外來化学療法 16床増
 - 救急他科外來 3室増、リハビリ室 拡張、臨床講義室 階段教室として整備
- これらを実現するために、新A棟については、現行の高さ規制31mの緩和について橿原市と調整予定(45mを目指す)

図6

奈良医大を核とした「MBT 橿原スポーツ・学研都市構想」(細井私案)



政策アクション会議 奈良県知事勉強会 (2024年12月23日東京有楽町)
 政府要人と奈良県幹部出席

奈良医大大学院看護学研究科は2024年4月に博士後期課程を開設しました。奈良県で唯一の博士(看護学)を授与できる機関となりました。(図4)

2024年7月11日に私が知事と面談したのを皮切りに、新A棟(仮称)の建設計画が本格化しました。その後医大役員と副知事、総務部長など県幹部も交えて折衝が繰り返され、11月18日に整備事業の骨格が固まりました。折衝において医大の意見を大幅に取り入れていただきました。図5に新A棟の整備の概要を示します。病院事業債の償還利子を含む総事業費は約683億円、うち県負担額が346億円、医大負担額が337億円です。従来、新棟の建設に当たっては、高さ制限である31m以上の建物は建てられないことを前提に設計されていました。私は、以前からこれに疑問を抱き、近代的な病院として合理性のある設計の必要性を訴えてきました。つまり、低層で平坦な病院は、ストレッチャーで患者さんを運ぶこと一つをとってみても、その移動距離において、患者さん、看護師、医師に多くの負担をかけます。高層であればエレベーターの利用によってその負担は大きく軽減されます。私は新聞や講演等で「景観より人の命が大切」と訴えてきました。今回の県との合意事項の中に、「現行の高さ規制31mの緩和について橿原市と調整予定(45mを目指す。)」が入ったことは、奈良医大の病院棟において、はじめて合理的な高さが実現できると期待しています。

医大周辺のまちづくりの議論も活発化して参りました。医大に直結した新駅は2030年までに、医大周辺に設置される新アリーナは2031年までの完成が予定されています。2024年12月23日に東京有楽町で開催されました「政策アクション会議・奈良県知事勉強会」において、政府要人や奈良県の幹部の皆様は、「奈良医大を核とした学術研究都市構想」を提案しました。奈良医大の新病院棟ができ、駅ができ、巨大なアリーナができる機会は奈良医大にとってだけでなく、橿原市や奈良県にとって発展の絶好の機会だと感じています。この場所に大学や研究機関を誘致して、この計画を実現させたいと考えています。(図6)

図7

科学研究費

機関名	教員数	採択件数 (新規+継続)	採択額 (新規+継続)	応募件数 (新規)	採択件数 (新規)	採択額(新規+継続)	
						教員一人当たり	
京都府立医科大学	462	306 [1位]	435,400 [1位]	290 [6位]	92 [1位]	942.4 [1位]	
自治医科大学	1,480	281 [2位]	386,300 [2位]	242 [11位]	88 [2位]	261.0 [15位]	
東京慈恵会医科大学	530	280 [3位]	364,200 [4位]	223 [14位]	66 [10位]	687.2 [7位]	
福島県立医科大学	806	271 [4位]	333,400 [8位]	416 [1位]	88 [2位]	413.6 [9位]	
藤田医科大学	1,219	262 [5位]	366,800 [3位]	396 [2位]	75 [7位]	300.9 [14位]	
奈良県立医科大学	387	261 [6位]	333,200 [9位]	302 [5位]	84 [4位]	861.0 [3位]	
札幌医科大学	400	260 [7位]	306,800 [10位]	279 [9位]	76 [6位]	767.0 [5位]	
浜松医科大学	406	251 [8位]	344,800 [6位]	282 [7位]	82 [5位]	849.3 [4位]	
和歌山県立医科大学	387	243 [9位]	346,100 [5位]	316 [3位]	71 [8位]	894.3 [2位]	
関西医科大学	986	235 [10位]	340,500 [7位]	239 [12位]	70 [9位]	345.3 [12位]	

研究費の獲得額が増加してきました。現状は、新規と継続を合わせて全国の単科医科大学 25 大学中、件数で第 6 位、金額で第 9 位です。図 7 に示しますように、単科医科大学中のトップは京都府立医科大学です。このトップを目指して、差を縮めてきています。新規と継続を合わせての採択件数では、2018 年に 101 件の差がありましたが、2023 年には 46 件差に縮まりました。採択額においては、2012 年には 2 億 8000 万円、2019 年には 1 億 9800 万円でしたが、2023 年には 9800 万円に大幅に縮まりました。10 年前は極めて大きな差でしたが、特に 2019 年から急速に背中が見えるようになってきました。

図8

2024年度大学入試判定基準 A 一覧 (ベネッセ・駿台 データネットより)

	大学名	学部	前期後期	判定基準 A
医学部・医学科 定員50人以上 の入試区分の 集計	1 東京大	理科三類	前	84
	1 東京医歯大	医	前	84
	3 奈良県立医大	医	後	83
	3 京都大	医	前	83
	5 大阪大	医	前	82
その他	東京大	理科一類	前	79
	東京大	理科二類	前	78

偏差値はすべてではありませんが、世間では一つの重要な指標と考えられています。2011 年に奈良医大の将来を考えて後期入試重視の提案を行いました。当時多くの反対意見もありました。全国から優秀な学生が集まるが、卒業後他府県に帰るので奈良県に残る人が少なくなり、奈良医大の医局への入局が減るとというのが、主な反対の理由でした。最終的に 2011 年 6 月の教授会で承認され、現在に至っています。図 8 はベネッセ・駿台のデータですが、河合塾も同様の結果でした。入学してきた優秀な学生をより優秀にして卒業させるのが大学の使命です。未来への飛躍基金はそのために非常に重要な役割を果たしています。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

図9

2024年度マッチング結果(大学病院)

順位(年)					施設名	募集定員	マッチ者数	充足率(%)	自大学比率(%)
2024	2023	2022	2021	2020					
1	1	1	1	1	東京医科歯科大学病院	94	94	100.0	54.3
1	1	17	34	20	神戸大学医学部附属病院	65	65	100.0	26.2
1	1	1	1	29	京都府立医科大学附属病院	63	63	100.0	46.0
1	22	22	22	18	兵庫医科大学病院	55	55	100.0	41.8
1	1	1	23	1	慶應義塾大学病院	52	52	100.0	30.8
1	1	1	16	38	杏林大学医学部付属病院	50	50	100.0	72.0
1	1	1	30	1	横浜市立大学附属病院	47	47	100.0	21.3
1	1	24	24	23	日本医科大学付属病院	45	45	100.0	60.0
1	1	1	1	1	関西医科大学附属病院	44	44	100.0	77.3
1	1	26	37	43	日本大学医学部附属板橋病院	43	43	100.0	65.1
1	1	1	17	33	北里大学病院	43	43	100.0	88.4
1	1	31	33	19	順天堂大学医学部附属順天堂医院	42	42	100.0	61.9
1	1	1	25	28	東京医科大学病院	39	39	100.0	48.7
1	1	1	26	15	名古屋市立大学病院	36	36	100.0	44.4
1	1	1	1	1	昭和大学病院	35	35	100.0	34.3
1	30	1	1	1	藤田医科大学病院	33	33	100.0	63.6
1	1	1	1	21	東京慈恵会医科大学附属病院	32	32	100.0	31.3
1	1	1	31	22	東邦大学医療センター大森病院	29	29	100.0	51.7
1	26	28	19	41	帝京大学医学部附属病院	28	28	100.0	71.4
20	24	21	15	1	大阪公立大学医学部附属病院	64	63	98.4	44.4
21	1	1	1	1	大阪医科薬科大学病院	55	54	98.2	53.7
22	1	41	1	32	奈良県立医科大学附属病院	49	48	98.0	64.6
23	1	1	1	12	東京大学医学部附属病院	96	94	97.9	14.9

図 9 に大学病院のマッチング結果を示します。本年は 1 名のみアンマッチで 100% を達成できませんでしたが、極めて高いマッチング率を維持しています。100% の大学はほとんどが大都市圏の大学です。

図 10

2024年後マッチング結果 (県単位)

順位 (年)					都道府県	募集定員	マッチ者数	前年比増減	マッチ率 (%)
2024	2023	2022	2021	2020					
1	2	5	7	6	兵庫県	402	400	△7	99.5%
2	1	21	3	9	奈良県	121	120	△6	99.2%
3	3	4	6	5	東京都	1,230	1,216	△8	98.9%
4	4	3	1	1	大阪府	631	622	△14	98.6%
5	6	1	2	2	神奈川県	667	649	2	97.3%
6	7	7	8	7	愛知県	555	531	△7	95.7%
7	11	11	13	18	埼玉県	450	428	22	95.1%
8	5	2	5	3	京都府	250	235	△17	94.0%
9	8	6	10	8	千葉県	480	451	△8	94.0%
10	16	12	12	12	沖縄県	160	150	23	93.8%
11	12	17	14	17	滋賀県	123	109	△4	88.6%
12	10	10	9	10	福岡県	410	362	△20	88.3%
13	9	8	11	14	静岡県	310	270	△12	87.1%
14	14	14	15	15	広島県	206	178	7	86.4%
15	29	20	25	25	富山県	106	89	14	84.0%
16	28	16	16	11	栃木県	186	156	23	83.9%
17	20	18	24	29	茨城県	235	197	12	83.8%
18	30	31	30	37	岐阜県	182	151	24	83.0%
19	24	26	27	23	宮城県	219	177	12	80.8%
20	26	37	28	39	石川県	128	103	8	80.5%
21	25	32	21	16	和歌山県	121	96	6	79.3%
22	17	19	20	19	三重県	165	129	1	78.2%

図 10 に県単位のマッチング結果を示します。県単位では兵庫県について 2 位でした。20 年以上のマッチングの歴史上県単位で 100% を達成したのは、2019 年と 2023 年の奈良県のみです。図 9 で示しました後期入試重視で奈良県に残る人が減るという心配は杞憂でした。先生方のご努力で県単位でも高いマッチング率を維持しています。

アントレプレナーシップとは、「新しい事業分野を起こそうとする精神」です。新しい事業分野を切り開くために必要な、想像力や発想力、行動力、チャレンジ精神、リスクを恐れない勇敢さのことを意味しています。

医科大学においてもこの精神は重要だと考え、積極的にベンチャー企業の育成に努めています。図 11 に示すように、昨年も 2 社が新たに奈良医大発ベンチャーとして加わりました。

図 11

アントレプレナーシップの醸成 奈良医大発ベンチャー一覧

MBTコンソーシアムによる企業支援 2024年12月16日現在

No	起業日	社名	創業時代表者 (奈良医大所属)
1	2018.10.01	MBTリンク株式会社	梅田智広 (MBT研究所研究教授)
2	2021.07.01	MBT微生物学研究所株式会社	矢野寿一 (微生物感染症学講座教授)
3	2021.10.08	MBT感染対策支援コンサルティング株式会社	笠原敬 (感染症センター教授)
4	2022.01.04	株式会社 MBT保健医療衛生研究開発機構	今村知明 (公衆衛生学講座教授)
5	2022.06.21	モルミル株式会社	森英一朗 (未来基礎医学講座教授)
6	2022.10.17	株式会社 MBTジョブプレオーネ	岡山弘美 (人事課障害者雇用推進係長)
7	2024.10.03	株式会社オキシキャリア	山口智宏
8	2024.11.18	特定非営利活動法人 MBT奈良画像診断・iVR支援ネットワーク	阪口 浩

図 12 に MBT コンソーシアムの会員を示します。20 年前に発想した住居医学を起源とし、大和ハウスから 6 億円の寄付をいただいて事業をスタートしました。すべての業種から奈良医大のもとに集まり、奈良医大との協業により社会に貢献していただいています。単科の医科大学に医療と関連のない企業も含めてこのように多数の企業がコンソーシアムを形成している例は世界的にも稀だと思います。この他にも 40 を超える企業が難病克服キャンペーンに協賛いただいています。

図 12

MBT 活動

MBTコンソーシアム会員数種別リスト (2024年12月2日現在 163会員)

業種	MBTコンソーシアム会員	企業数
建設	梅田智広、梅田智広奈良支店、梅田山工務店、梅田さんでん奈良支店、梅田グッドライフ、グリーンアーム、梅田山組、梅田ハウス、大和ハウス工業、大和リース、梅田内藤建築事務所、梅田建屋、梅田電気工業、梅田松田平田設計、梅田ライオンフロンテック	13
食品	石井物産、江崎グリコ、梅田大塚王、春日井製菓、カンロ、三和製粉工業、高山製菓、UHA味覚糖	8
繊維・バルブ・紙	梅田、梅田エーススポーツ、梅田ロード、梅田、SJMNOE、梅田カギ、梅田木包装、梅田ハヤシ、梅田Borich、梅田三笠、梅田・ユニオン工業	11
化学	SBカワセ、梅田ケム、ナノソリューション、明後化学工業、山本商事	5
医薬品	梅田キョウヤ、クオール、梅田ソリューション免疫研究所、住友薬品工業、梅田和漢方、梅田メディカル、中外製薬、梅田ツラ、ローテック	9
鉄鋼・非鉄金属	(一社)日本鋼センター、丸一鋼管、三菱マテリアル	3
繊維	グローリー、KTX、シンス、梅田カゴ、梅田カゴ、DMG森精機、チカグローブ	7
電気機器	アイワ、梅田オーディオテクニカ、梅田コムテック、梅田GCHサウンド、シヤープ、シヤープディスプレイテクノロジー、ティアム・エイ、富士通Japan、梅田田製作所、梅田電研	10
医療・精密機器	梅田工業、エア・ウォーター、梅田ADL、梅田Med、梅田バイオテック、梅田メカニカルシステムズ、梅田ケアコム、大研医療、梅田モーター、TOPPAN、梅田精工、ニゴロ、バイオソリューション、梅田イーシー、ウダ産業	15
その他製造	梅田の化成、エクレール、カナシテクニクス、メカトロニクス、梅田K&S、三友商事、梅田西川、梅田ゼン、日本アイエス、梅田富士通エネルギー、梅田モーター、梅田モーター、梅田ラファエル、梅田ラファエル、梅田ラファエル、梅田ラファエル	14
商業	梅田ビジョン	2
金融・保険	梅田信用金庫、梅田信用金庫、梅田信用金庫、梅田信用金庫、梅田信用金庫、梅田信用金庫、梅田信用金庫、梅田信用金庫	7
不動産	梅田不動産	1
運輸・倉庫	梅田グループホールディングス、梅田グループホールディングス	2
情報・通信	梅田クラウド、梅田クラウド、梅田クラウド、梅田クラウド、梅田クラウド、梅田クラウド、梅田クラウド、梅田クラウド	14
電力・ガス	梅田ガス、梅田電力、大和ガス、奈良電力	4
サービス	梅田エール、梅田エール、梅田エール、梅田エール、梅田エール、梅田エール、梅田エール、梅田エール	28
公共・その他 (自治体、大学、病院)	(一社)梅田、(一社)梅田、(一社)梅田、(一社)梅田、(一社)梅田、(一社)梅田、(一社)梅田、(一社)梅田	8

図 13

難病克服キャンペーン映画祭 (東京 日経ホール) 主催：奈良県立医科大学、MBT コンソーシアム



特別上映作品
「明日の記憶」の
主演俳優：渡辺謙さんが
舞台挨拶されました！

昨年は吉永小百合様を迎えて東京のよみうり大手町ホールで難病克服キャンペーン映画祭を行いました。本年は渡辺謙様をゲストに、大手町の日経ホールに多くの聴衆を迎えて行いました(図13)。奈良医大が提唱する難病克服の意図が徐々に全国に広がっています。吉永様に奈良医大の映画祭に来ていただくことを提案しましたとき、多くの人が不可能だと言いましたが、吉永様に手紙を出し実現しました。このような有名な方に無償で協力してもらうにあたり、アントレプレナーシップに通じる「当たって砕ける」の精神で挑戦することの意義を改めて確認しました。

図 14

5月24日：開学80周年記念式典

奈良県立医科大学
令和7年4月 新キャンパス開校予定

令和7(2025)年4月に新キャンパスを開校します。建物は、白鳥建設の郡域である橿原市をテーマとした、各都府県に伝承的・創発的建築を印象づけるようなデザインを取り入れており、本学ならではの医学・看護学教育を推進するにふさわしい新キャンパスです。

新キャンパスとともに飛躍！
奈良県立医科大学は、令和7(2025)年に創立80周年を迎えます。記念事業を機軸として、第一の建学精神を継ぎ、最新かつ最高の教育・研究・診療を提供できる環境を整え、さらなる飛躍を目指します。

開学80周年・新キャンパス開校・ミシガン大学学長招聘は、奈良医大を国内はもとより、世界にアピールできるチャンス

5月24日に開学80周年記念式典を挙行政します。免疫学の伊藤教授を委員長とする「開学80周年記念及び新キャンパスオープン記念事業実行委員会」の先生方が中心となって種々の企画を計画いただいています。(図14)

図 15

2018年5月 ミシガン大学医学部長・研究科長来学

2018年12月 調印式 (ミシガン大学にて)

ミシガン大学のサンタ・オノ学長をメインゲストとして80周年記念式典を行います。ミシガン大学との縁は、伊藤教授がミシガン大学に留学されていたことから、2018年5月にミシガン大学CEO、医学部長のRunge教授が奈良医大に来学されたことから始まります。2018年12月には私と伊藤教授、ボルスタッド教授、河村准教授がミシガン大学を訪問、連携協定に調印しました。その後学生がミシガン大学で指導を受けて、Cell誌等の有力医学誌に論文が掲載されるなど関係が深まってきました。(図15)

図 16

ミシガン大学概要

設立年 1817年 (州立)	教員数 6,419人
資金 78億米ドル (約1兆2000億円)	職員数 18,426人
学長 サンタ・オノ氏	学生数 42,716人
世界大学ランキング 22位 (2025年)	総面積 84.84 km ²
世界医学部ランキング 26位 (東大 42位)	ノーベル賞受賞者数 25人

メインキャンパス全景 医学部全景
スタジアム・アリーナ 循環器病センター

図16にミシガン大学の概要を示します。ノーベル賞受賞者を25人も輩出するなど、世界的に極めて評価の高い大学です。

「第4回MBT みんなで守るいのちの映画祭」を開催しました

2025年1月18日、第4回MBT みんなで守るいのちの映画祭（以下、MBT いのちの映画祭）を東京・大手町の「日経ホール」で開催いたしました。当日は約400名の参加者を迎え、盛大に執り行われました。

MBT いのちの映画祭は、「みんなで守るいのち」をテーマとした、病気に立ち向かい勇気づけられるような映像作品を上映し多くの方に共助の心を醸成していただくのが目的です。

今回のMBT いのちの映画祭では、応募総数56本の作品から選ばれた入賞作品5本が上映されました。審査はプロの映画監督、医療専門家、難病患者の代表など7名で構成された審査委員会（委員長：映画監督 篠原哲雄氏）によって行われ、最優秀賞1本、優秀賞2本が選出され、以下のとおり表彰されました。

【受賞作品一覧】

最優秀作品賞：「どうしようもないな」 安藤 舞

優秀作品賞：「わたしのいる場所」 中村 雄貴

「今を生きている。」 泉澤 顕



最優秀作品賞を受賞した安藤舞さん

映画祭の冒頭では、主催者を代表して本学細井裕司理事長が挨拶され、難病患者が直面する課題の周知と社会的支援の拡大を目的とした本映画祭の意義や、MBTの取り組みについて述べられました。

また、作品上映後には、プロの映画監督審査員と入賞作品監督がステージで意見交換を行うトークセッションを実施。それぞれの作品の評価や改善点など専門的な視点で議論が交わされ、観覧者も熱心に耳を傾けていました。





監督者たちによるトークセッションの様子

さらに、表彰式終了後には特別上映として、渡辺謙氏が主演を務められた映画「明日の記憶」が上映されました。この上映に先立ち、渡辺謙氏自ら舞台上に立ち、本映画祭の趣旨への共感を表明し、応援のメッセージを参加者に贈りました。

MBT いのちの映画祭は、難病患者の声を社会に広める重要な場として、今回も多くの方々に感動と気づきを与えました。本学は、引き続きこのような活動を通じて命の尊さと支え合いの大切さを発信してまいります。



渡辺謙さんの舞台挨拶



受付の様子



審査員たちによる審査



受賞者を含めた懇親会の様子



「足の外科」とともに



整形外科 教授 田中 康仁

整形外科は多彩な研究分野がありますが、私の専門は足首から先の「足の外科」です。1984年に本学を卒業し、整形外科に入局2年目に、足グループのチーフで当時講師をお務めの高倉義典名誉教授のお人柄にひかれ、「足の外科」を志し、以来40年にわたり一貫して足部疾患の病態解明と診断・治療法の開発に取り組んでまいりました。

はじめに足のX線像の解析方法としてmapping法を考案しました。これは絶対的な位置評価が可能な2次元の座標系を用いる方法で、外反母趾における第1中足骨の内反は第1足根中足関節で生じていることを明らかにし、学位を取得いたしました。この方法を応用し、関節リウマチの前足部変形の形態も一般の外反母趾と同様であることや、Lisfranc関節症や第2趾の外反には内転中足があることが分かりました。また、内反小趾では既存の分類法にない新たな群があることやJones骨折では第5中足骨が近位に長いことを発見いたしました。さらに外反母趾や強剛母趾では足アーチが低下していることや、アキレス腱付着部症では足アーチが上昇していることも証明いたしました。

さらに奈良医大足グループの大きなテーマである日本人に多い内反型変形性足関節症は、我々が提唱した脛骨下端関節面の傾斜を示すTAS角や病期のTakakura-Tanaka分類が世界標準として認められております。治療法に関しても、人工足関節置換術や下位脛骨骨切り術など足グループで世界に先駆けて開発した術式を進化させてまいりました。また距骨壊死の治療のためにセラミック製の人工距骨を当科で開発し、長期にわたり良好な成績が得られることが分かりました。令和2年には保険収載され、この術式でしか治療できない全国の患者さんに届けることができるようになりました。

また私は「足の外科」を通して世界につながる素晴らしい経験をさせていただきました。その嚆矢は1993年に高倉先生が

第1回アジア足の外科シンポジウムを主催されたことであり、その後、現在のアジア足の外科学会(AFFAS)に発展していきます。2002年にアジア、欧州、北米、南米の4つの連合が共同して国際足の外科学会(IFFAS)が発足し、初代presidentを高倉先生が務められました。私はその経緯をつぶさにみてきて、2016年からはアジア足の外科学会のpresidentとして、アジアの足の外科をまとめる機会をいただきました。そのご縁もあり、これまで100名を超える海外からのフェローが奈良医大に留学していただき、本学の国際化に貢献できたのではないかと嬉しく思っております。

私の研究は、「足の外科」を中心として、スポーツ医学はもとより、リウマチ学、整形外科超音波学、フットケア足病医学、舞台医学へと広がっております。整形外科超音波学においては、超音波ガイド下手術の開発に邁進いたしております。フットケア足病医学では形成外科や血管外科、看護学科などの先生方とともに、重症下肢虚血の救済のために奮闘いたしております。また舞台医学は音楽家や舞踏家などの舞台芸術家を医学的に研究する新しい学問であります。私が初代理事長を務めさせていただいております日本舞台医学会では、2021年から新国立劇場バレエ団のメディカルサポートを開始いたしました。ダンスでは足の障害・外傷が非常に多く、足の外科医はなくてはならない存在であります。今後これらの活動をさらに広げていきたいと考えております。

私の「足の外科」のキャリアは、日本の足の外科が世界に進出していく時期と完全にオーバーラップしており、その発展とともに歩むことができたのは非常に幸運でありました。足関連の分野が現在進行形で発展途上にあり、何かこれから面白いことができるのは間違いありません。引き続き「足の外科」の発展に貢献できるよう精進して参りたいと考えております。

ウイルスと私

今から振り返ると少し奇妙に思える話ですが、大学生時代のある時期から、「ウイルス」という言葉を耳にするたびに、胸が高鳴るような不思議な感覚を覚えるようになりました。当時、免疫不全を起こす未知のウイルス (HIV) が発見されたことにも触発され、極めてシンプルな構造を持ち、ときに物質のようでありながら、生物のようにも振る舞うウイルスという神秘的な存在について、もっと深く知りたいと思うようになりました。そのような中、阪大微生物病研究所 (阪大微研) から奈良医大に非常勤講師として来られていた山西弘一先生 (突発性発疹の原因ウイルスを発見された先生) のヘルペスウイルスの講義に感銘を受け、ウイルス学者になることを決意しました。この決意が、奈良医大から阪大へ出て行くきっかけとなりました。

奈良医大を卒業後、阪大病院で臨床研修を終え、阪大微研の大学院に進み、山西先生の指導の下、腎症候性出血熱ウイルス (ハンタウイルス) の研究に没頭しました。その後、臨床研修でお世話になった阪大皮膚科に戻ることにりましたが、ウイルスへの興味は尽きることなく、特にヘルペスウイルスの潜伏や再活性化と病気との関係に強く惹かれました。そのような折、先輩から「顔に丘疹が多発し、EBウイルス (EBV) の抗体価が高い患者がいるので調べてほしい」と声をかけていただきました。解析の結果、患者のT細胞中にEBVが潜伏感染していることを突き止め、さらにEBV感染T細胞株の樹立に世界で初めて成功しました。この研究は、その後、EBV関連NK/T細胞増殖症や蚊刺過敏症の病態解明に繋がりました。

ウイルスと免疫との関係をさらに深く学ぶため、米国NIHに留学し、免疫学の基礎を学びつつ、HHV-6やHIVの研究に

皮膚科学 浅田 秀夫



取り組むという貴重な経験を得ました。そして帰国後は、前任の宮川幸子教授に18年ぶりに母校に呼び戻していただきました。奈良医大に戻ってからも、HHV-6の再活性化を伴う重症薬疹 (薬剤性過敏症候群) の研究や、小豆島での带状疱疹の疫学研究など、ヘルペスウイルスに関連する疾患の研究を続け、充実した日々を過ごすことができました。特に、血清中のTARCが薬剤性過敏症候群のバイオマーカーになり得ることを見出し、先進医療を経て保険適用の承認に至ったこと、小豆島の疫学研究が带状疱疹ワクチンの実用化に繋がったこと、そして、「薬剤性過敏症候群診療ガイドライン」と「带状疱疹診療ガイドライン」という2つのガイドラインの策定に委員長として携われたことは、私にとって意義深い経験でした。これらを通じ、少しは社会貢献ができたのではと感じておりますが、これらの成果は、教室の先生方をはじめ学内外の多くの方々の方々の協力の賜物であり、心より感謝しております。

年齢を重ね、責任が増すにつれて、若い頃のように四六時中ウイルスのことばかりを考えているわけにはいかなくなりましたが、それでも常に頭の片隅ではウイルスについて思いを巡らせています。与えられた環境と折り合いをつけつつ、自分のやりたいことを続けるのは決して平坦な道ではありませんでしたが、その道中で多くの素晴らしい出会いに恵まれました。ここまで歩んでこられたのは、人生の節目節目で出会ったかけがえない先輩、同僚、後輩の方々のおかげです。

若い頃、私自身が多くの方々から大きな影響を受けたように、これまで関わってきた若い先生方に、少しでも良い影響を与えられていたなら、それに勝る喜びはありません。

先端医学研究支援機構だより

研究力向上支援センターからのお知らせ

学術の舞台 vol.3 を掲載しています

(本学ホームページ) > 研究力向上支援センター > 学術の舞台

研究力向上支援センターのホームページでは研究に役立てていただける各種情報と本学研究者の方々へのインタビューをはじめとした研究紹介をしています。今回の「学術の舞台」ページでは生化学講座 教授(兼) オートファジー・抗老化研究センター長の中村修平先生へのインタビュー記事を掲載しました。

中村先生の研究が2024年11月、日本医療研究開発機構(AMED)の令和6年度 革新的先端研究開発支援事業(AMED-CREST)に採択されました。AMEDは日本における医療分野の研究開発およびその環境整備の中核的な役割を担う機関です。AMEDによる革新的先端研究開発支援事業では、国が定めた研究開発目標の下、革新的な医薬品や医療機器、医療技術等を創出することを目的に、組織の枠を超えた時限的な研究体制を構築し、画期的シーズの創出・育成に向けた先端的研究開発を推進するとともに、有望な成果について研究を加速・深化します。

今回中村先生が採択された研究開発領域「ストレスへの応答と疾患発症に至るメカニズムの解明」は令和5年度に決定され、ヒトが生活する中で受ける様々なストレスを起因とした疾患の発症予防を目標に、細胞レベルと個体レベルを統合した研究を行う課題領域です。中村先生を代表とする研究チームの採択課題「リソソームストレス応答の破綻による神経・筋疾患発症機構の解明と超早期バイオマーカー開発」について、中村先生にお話をお伺いしました。

内容は、研究力向上支援センターのホームページに掲載しておりますので是非ご覧ください。

研究力向上支援センターでは、この他にも様々な情報を発信しております。今後も研究力向上支援センターの学内ホームページ等を通じてご紹介をしていきますのでご期待ください。



生化学講座 教授(兼)
オートファジー・抗老化研究
センター長 中村修平先生



研究力向上支援センター HP 中村修平先生記事:

<https://www.naramed-u.ac.jp/university/kanrenshisetsu/crcd/documents/amed-crest-nakamura.html>

医学研究支援センターからのお知らせ

組換え DNA 実験安全委員会講演会を開催しました

京都大学大学院 農学研究科 特定教授 佐久間哲史先生に、「ゲノム編集生物の取扱い～遺伝子組換え生物に“該当する”ものと“準ずる”もの～」と題し、遺伝子組換え実験を実施する際の拡散防止の考え方や、常に安全な組換え実験の実施を意識する大切さについて、11月21日に本学の実験者に対してご講演いただきました。



京都大学 佐久間 哲史先生

学報編集委員会からのお知らせ

寄稿記事募集案内

「学報」では、奈良県立医科大学や附属病院に関すること、お知らせ等を掲載するため、これらに関連する記事を広く募集しております。

掲載を希望する記事がある場合は内線2375までお問い合わせください。

なお「学報」は年4回発行しており、本学教職員・学生のみならず本学同窓会会員や関連大学・病院等にも配布しております。



1. 奈良医大発ベンチャー設立支援の取り組み

2021 年年頭の細井理事長による「奈良医大発ベンチャー」起業の勧め「奈良医大を、夢あふれる医科大学へ」の発信以来、本学では奈良医大発ベンチャー設立支援の取り組みを続けてきました。これに関連する最近の動きをご紹介します。

- (1) 2024年1月、JSTのスタートアップ・エコシステム共創プログラムの2023年度採択プラットフォームが決定し、京都大学を主幹機関とするプラットフォーム「関西スタートアップアカデミア・コアリション(KSAC)」が採択されました。本学はスタートアップ創出共同機関として本プラットフォームに参画し、継続的なスタートアップの創出に取り組んでいます。

このプログラムでは、研究成果と事業化の間のギャップを埋めるため、ビジネスモデルのブラッシュアップ、試作品製作、仮説検証のためのデータ等の整備を進めるための資金 (GAP ファンド) が提供されるほか、起業支援人材が伴走型の支援を提供します。

2024年度のGAPファンドでは、口腔外科学講座の柳生貴裕講師による「マッチングプラットフォームを活用した抜去歯牙などの医療廃棄物の効率的利活用」の課題が採択され、JSTから1年間、1000万円の支援を受けております。

- (2) 2024年12月、本学は、「UPDATE EARTH」(アップデートアース)のスクールパートナーになりました。本プロジェクトは、日本に眠る世界を変える技術やアイデアに「育成」「発掘」「成長」の機会を提供し、イノベーションをより進展させることを狙いとしました。事業です。「育成」では、起業家教育プログラムを実施し、「発掘」では、地球を革新するアイデアコンテストと表彰を行います。また、「成長」では、地球を革新する事業計画のトライアウトや事業支援が実施されております。UPDATE EARTH 2024では、アイデアコンテストに21074件の応募があり、大賞1,000万円を含め14件の表彰がなされております。また、事業トライアウトに1486件の応募があり、6件が採択されております。

スクールパートナーには、東京科学大学、奈良先端科学技術大学院大学など21大学が既に参加しております。

- (3) 2024年6月にオープンした医療機関と企業、スタートアップ、支援機関(PMDA、インキュベーション会社)等が一屋根の下に集積する未来医療の産業化拠点であるNakanoshima Qrossと本学が参加する関西公立私立医科大学・医学部連合が連携を開始しました。Nakanoshima Qrossは、「未来医療MED センター」「未来医療R&D センター」「中之島国際フォーラム」の3つの施設で構成されており、それぞれ未来医療の「実践」「創造」「共有」の役割を持っています。この連携の一環として、Nakanoshima Qrossが拠点の一つとなっているジャパンバイオデザインフェローシッププログラムへの応募が本学からも可能となりました。同プログラムはスタンフォード大学により開発されたデザイン思考をもとに医療機器イノベーションを牽引する人材育成プログラムです。開発の初期段階から事業化の視点を検証しながら、医療現場のニーズを出発点として課題解決策を開発し、イノベーションを実現するアプローチを特徴とします。

- (4) 株式会社オキシキャリア(代表取締役:山口智宏氏)は、化学教室酒井宏水教授を中心に開発が進められていた人工赤血球に関する成果を基に設立されたベンチャーです。同社は動物用医薬品と診断薬の研究開発、製造販売の実績を活かし、動物用製剤の開発を目指しておりました。さらに同社は今年度よりヒト臨床用の人工赤血球の開発も目指すこととなり、これを機に奈良医大発ベンチャーに認定されました。これにより奈良医大発ベンチャーは8社目となり、本学は我が国の単科の医科大学の中で最大数の大学発ベンチャーを保有する大学となりました。



山口智宏代表取締役(左)と酒井宏水教授(右)

2. 株式会社モンベルとの包括連携協定を締結

11月18日、株式会社モンベルと本学及びMBTコンソーシアムは、若者や高齢者の健康増進などを目的とした包括連携協定を締結しました。(株)モンベルは、2023年8月期の連結売上高約1100億円というアウトドア用品大手です。今後以下の項目について協力を進めることとしております。

- 1) 自然体験の促進による環境保全意識の醸成に関すること
- 2) 子どもたちの生き抜いていく力の育成に関すること
- 3) 自然体験の促進による健康増進に関すること
- 4) 防災意識と災害対応力の向上に関すること
- 5) 地域の魅力発信とエコツーリズムの促進による地域経済の活性化に関すること
- 6) 農林水産業の活性化に関すること
- 7) 高齢者、障がい者等の自然体験参加の促進に関すること



辰野勇 株式会社モンベル会長兼CEOと細井裕理事長

国際交流センターだより vol.18

チェンマイ大学創立65周年記念式典に参加しました（10月24日・10月25日）

本学の協定校であるタイのチェンマイ大学からの招待を受け、2024年10月24日から25日にかけて、嶋医学部長、伊藤医学科長、川上看護学科長の3名が記念式典に参加しました。式典の一環として開催された「International Forum」では、嶋医学部長が本学の海外リサーチ・クラークシップについて講演を行いました。



チェンマイ大学医学部長と記念品交換



嶋医学部長の講演



記念セレモニー（チェンマイ・マリオットホテルにて）

医学部長 嶋 緑倫

チェンマイ大学とはこれまで医学学生や看護師の交換留学を通じて連携を深めてきました。このたびの65周年記念国際フォーラムには、同大学と連携関係にある多くの国が参加しており、チェンマイ大学が国際交流に注ぐ熱意やその取り組みの力強さを実感いたしました。また、医学部長のリーダーシップのもと、各スタッフが新たなプロジェクトに向けて一丸となって取り組んでいる姿勢に深く感銘をうけました。フォーラムでは、本学が推進する海外リサーチ・クラークシップについて講演する機会をいただき、多くの参加者に関心を寄せていただけました。さらに、両大学間の交流をさらに進める方向性で合意に至り、大きな成果を得ることができました。このように大変有意義な滞在となり、今後もチェンマイ大学をはじめ、海外の教育機関との連携を一層深め、さらなる発展を目指したいと考えています。

免疫学 教授 伊藤 利洋

学術交流協定校であるチェンマイ大学を初めて訪問させていただきました。大学・附属病院の規模の大きさのみならず、DX（デジタルトランスフォーメーション）化の進歩・発展に大きな衝撃を受け、本学も学ぶべき点が多岐にわたることを認識できました。IT技術が急速に発展する中でも、職員・学生が一丸となって我々を温かく迎えてくださるチェンマイ大学のホスピタリティにも大変感銘を受けました。また医学部長や看護部長とも面談させていただき、両大学間交流のさらなる活性化を推進することで合意できました。最後にこのような貴重な機会を与えていただきました細井学長、嶋医学部長、国際交流センターの皆様方に厚く御礼申し上げます。



医学部との面談

小児看護学 教授 川上 あずさ

記念式典後看護学部を訪問し、Suparat Wangsrikhun看護学部長と大学間の協定書を確認しました。和やかな雰囲気の中で、それぞれの看護学教育の現状について情報交換し、看護学科の国際看護論Ⅱにおけるチェンマイ大学での研修の再開やチェンマイ大学看護学生の本学での研修について意見交換を行いました。

その後、看護学科棟の演習室やミュージアムを案内いただき看護学部発展の経緯を理解しました。今後も交流を深め相互の発展につなげていきたいと考えています。



看護学部との面談

「第12回英語で学ぶ医学・看護学セミナー（医学科2年生対象）を開催しました（11月5日）」

免疫学 教授 伊藤 利洋

本学と連携協定を締結している米国ミシガン大学から Kao 教授（消化器内科）をお招きし、医学生・医師が医学研究に取り組む重要性やその価値をご自身の経験を交えながらご講演いただきました。研究室配属（リサーチ・クラークシップ）を目前にした医学科2年生が主な聴講者でしたので、医学生としてこれから取り組む医学研究の意義や重要性を認識し、リサーチ・クラークシップに取り組んでくれることを期待しております。



ミシガン大学医学部 消化器内科 教授 John Y. Kao (ジョン・カオ)

I want to thank Professor Toshihiro Ito for his hospitality and invitation to visit Nara Medical University. I am extremely honored to share my journey as a physician-scientist with the entire 2nd Year Medical Student class who are about to start their laboratory research elective. When Professor Ito visited the University of Michigan last December, we both felt that physicians must first seek to understand the mechanism of the illness of their patients. To do so, one must ask the right questions, as the answer you get is only as important as the question you ask. By participating in basic science research, one will learn how to think critically about a clinical problem and how to ask important and testable questions. In my lecture, I also shared several examples where my patients gave me new insight into the mechanisms of disease (e.g., the role of gut microbiota in diabetes management).



学生の声



医学科2年 原田 昌

John Kao 先生がなぜ医学部にいながら研究の道へ進まれたのか、人生の選択で重要な視点、そして医師として研究に携わる者としての心得を学べた貴重な機会でした。月並みな道に甘んじずに自身の“North Star”を目指す生き方に感銘を受けると共に、ただ科学をする者ではなく、医師の視点を活かした研究者を志そうと考える契機となりました。



海外リサーチ・クラークシップ派遣前研究発表会を開催しました（12月17日）」

2025年1月6日から3月20日までの海外リサーチ・クラークシップで、ドイツの Max Planck Institute for Biology of Ageing に派遣予定の原田昌さん（医学科2年）が、留学中の研究内容について発表し、また、意気込みと抱負を述べてくれました。この貴重な機会を活かして、大いに学んできてほしいと思います。



令和6年度（第2回）若手研究者国際学会発表助成事業 助成者決定

令和6年度 第2回若手研究者国際学会発表助成事業の助成者は、右記の3名の方々に決定しました。この事業は、若手研究者の国際学会等での発表の機会を増大させ、国際的に活躍できる人材の育成を推進することにより本学における研究活動の一層の活性化を図るため、20万円を上限とした助成をしているものです。（募集は年3回）皆さまの積極的なご応募をお待ちしています。

所属(科目)	職名	氏名
精神医学	医員	奥村 和生
麻酔科学	学内講師	田中 暢洋
整形外科	医員	宮本 拓馬

令和6年度 海外留学助成事業 助成者決定

今年度より本学の発展の一助とするため、海外留学助成事業を創設しました。この制度は海外において学術の研究、調査等に従事する者に対して、未来への飛躍基金を活用した海外留学助成です。令和6年度は、右記の3名の方々に決定しました。毎年募集を予定しておりますので、皆さまの積極的なご応募をお待ちしています。

所属(科目)	職名	氏名
消化器・総合外科学	大学院生	寺井 太一
呼吸器内科学	大学院生	濱田 恵理子
脳神経外科学	診療助教	森本 堯之

UpToDate・今日の臨床サポート～臨床支援ツールの使い方～

奈良医大でご利用いただける臨床支援ツール

本学でご利用いただける臨床支援ツールとしては、英語の「UpToDate」、[DynaMed]、日本語の「今日の臨床サポート」などがあります。いずれも、学内ネットワークからアカウント登録すると自宅やスマホからも利用できるようになり、最新の治療法やエビデンスを素早く検索できます。内容は専門家によって精査され頻りに更新されているので、信頼できる情報を時間をかけずに得られます。医師のみならず、多くの職種の医療従事者や医療事務、学生などにとっても有用なツールです。

臨床支援ツールへのアクセス方法

図書館トップページ > 診療サポート > ツールの名称
ツール名の下部にある「概要」をクリックすると、各ツールの説明とリモートアクセス方法が表示されます。

「UpToDate」とは

診療の際、医師が遭遇する疑問に、即座に実用的な回答を得られる電子臨床医学教科書です。英語ですが検索のみ日本語にも対応しています。

リモートアクセス、モバイルアプリ利用法

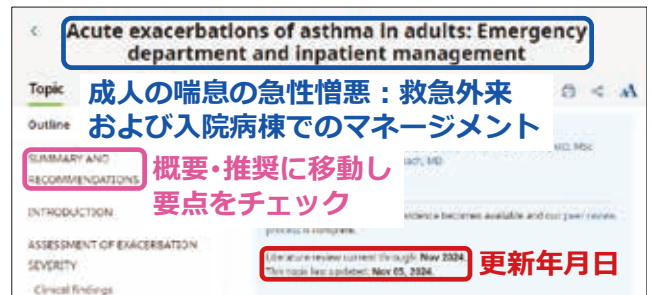
- ①学内ネットワーク下からアクセスし、「UpToDate」トップページ右上の「登録」からアカウント登録
 - ②アカウント登録後、学外からアクセスする際はトップページ右上の「ログイン」からリモートアクセス可能
- ※アカウント保持のため、120日毎に学内ネットワークからログインが必要
- ・モバイルアプリ（2台まで）：App Store/Playストアでアプリをダウンロードし、登録したアカウントを入力して使用

基本的な使用法（例：喘息発作の治療）

- ①トップページ下部「Language」から検索言語を選択
- ②検索窓に日本語で「喘息発作の治療」と入力して検索
- ③検索結果として表示されるトピックから、今回は「成人の喘息の急性増悪」をクリック
- ④上部に記載されている更新年月日で、最新情報かどうか確認
- ⑤「Summary and Recommendations」で全体像をつかんでから、必要な項目を選択



UpToDate トップページ



UpToDate コンテンツの例

「今日の臨床サポート」とは

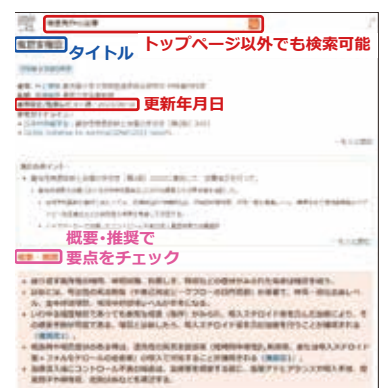
国内向けに開発された臨床支援ツールです。エビデンスに基づいた医療情報、薬剤情報や診療報酬点数などが掲載された、医療従事者や医療事務に役立つ情報源です。

リモートアクセス方法

- ①学内ネットワーク下からアクセスし、「今日の臨床サポート」トップページ右上の「アカウント」をクリックして「リモート用アカウント作成」からアカウント登録
 - ②アカウント登録後、学外からアクセスする際は、登録したメールアドレスとパスワードを入力して「ログイン」からリモートアクセス可能
- ※アカウント保持のため、180日毎に学内ネットワークからログインが必要

基本的な使用法（例：喘息発作の治療）

- ①トップページ検索窓に「喘息発作の治療」と入力して検索
- ②検索結果として表示されるトピックから、今回は「気管支喘息」をクリック
- ③上部に記載されている更新年月日で、最新情報かどうか確認
- ④冒頭の「概要・推奨」で全体像をつかんでから、必要な項目を選択



今日の臨床サポート コンテンツの例

臨床支援ツール利用上の注意点

- ・UpToDateなど海外のツールで引用している一次情報の多くは欧米から発信された研究報告ですので、体格や生活環境、疾病構造が日本人と異なる場合があります。さらに、日本では使用できない薬剤の情報も含まれます。そのため、臨床支援ツールで得られた情報を患者に適用できるか、個々に吟味する必要があります。
- ・いずれのツールも頻りに更新されますので、常に最新情報をチェックしましょう。

働き方改革だより

当院でのタスクシフト/シェアの取組

当院では、医療従事者・補助者が連携し、診療業務のタスクシフトを行うことで効率的な業務運営体制を整備しています。今回は当院で活躍する医師事務作業補助者・看護補助者について紹介します。

医師事務作業補助者の業務

診断書や紹介状など医療文書の代行入力業務をはじめ、外来での呼出、再診予約・各種検査予約など、医師の業務負担軽減に寄与する外来診療を円滑に運営するための縁の下の力持ち。また、手術の症例登録や厚生労働省に報告する診療データの整理や管理など、医師の指示のもとに、診療全般をサポートするお仕事です。



医師と打ち合わせ

医師事務作業補助者に伺いました

——医師事務のお仕事について教えてください

医療用語を覚えるところから始まり、電子カルテの操作や、情報収集に慣れるまで大変なこともありましたが、日々新しい発見も多く、文書作成等を任せていただけるので頼りにされている実感が湧き、やりがいのある仕事だと感じています。

——これからに向けて一言お願いします！

忙しい先生方の事務作業の負担をできるだけ減らせるよう、更に知識を増やして、オーダー補助等、対応できることを増やしていきたいです。



電子カルテ代行入力業務

医師にインタビュー

診察や検査の予約、医療文書の代行入力、外来での呼出等を支援していただいています。外来準備の時間が大幅に短縮でき、外来診療中も患者さんの話をゆっくり聞けるようになりました。医師事務作業補助の方には大変感謝しています。

看護補助者の業務

病棟の環境整備（ベッドメイクや清掃）、患者さんの食事・入浴・排泄・清潔介助や検査部門への移送、書類の運搬など、看護スタッフの業務負担軽減に寄与する病棟業務の運営にはなくてはならない存在です。昨年度からはナイトサポーター（夜間看護補助）も増員されました。

昼夜を問わず安全で質の高い医療・看護を提供するため、病棟業務全般をサポートするお仕事です。



看護補助者に伺いました

——看護補助のお仕事について教えてください

体力を使う業務のため肉体的な負担がありますが、患者さんの笑顔や「ありがとう」の言葉、看護師や他の職員からの「助かる」という言葉を励みに日々勤務しています。

——これからに向けて一言お願いします！

更に皆さんの役に立てるよう、もっと頑張りたいです。

師長にインタビュー

患者さんを一番身近なところで援助いただいています。看護師の知らないことを教えてくれたり、物品管理やベッドの備品の状態等、細部にも気付いたりしてくれるので、患者さんも看護師も頼りにしている存在です。



日勤から夜勤への業務引継



清拭車の片付け

未来への飛躍基金だより

平素より、本学における教育・研究・診療活動への多大なご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。皆様からいただいたご寄附は、教育、研究及び診療活動への支援、大学及び附属病院の施設整備等、幅広く活用させていただいております。

事業の概要

■ 学生の海外派遣実習・研修等への支援

- ・ 海外リサーチ・クラークシップ ・ 臨床実習
- ・ 海外留学 ・ その他海外研修等

■ 臨床研究の推進

医師主導治験・特定臨床研究の実施を目指している研究者に対して研究資金の一部を援助。

■ その他

英文校正費助成、事務費等

■ 大学の設備充実

大学設備の機能向上のための整備を実施。

■ 臨床英語での教育活動支援

医学・看護学の準備教育としての臨床英語の強化を図るための講座活動費を助成。

■ 教育・研究活動等充実助成事業

各所属で実施している教育・研究活動事業への助成。



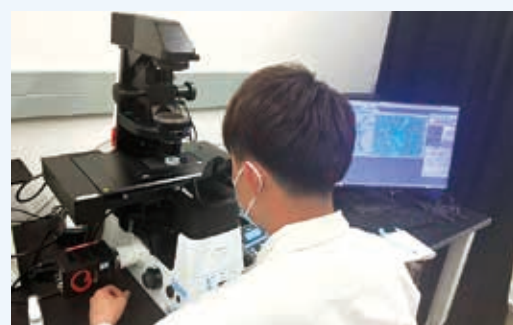
オートファジー・抗老化研究センター
キックオフ記念シンポジウム



基礎医学棟第2講義室の机・椅子を更新



医学科リサーチ・クラークシップ



ふるさと納税制度によるご寄附のながれ

■ 実質自己負担額は2,000円のみ

ふるさと納税制度をご活用いただくことで、所得等に応じた限度額*の範囲であれば、自己負担額の2,000円を除いた全額が所得税及び住民税から控除されます。*控除される額には上限がありますので、お住まいの市町村または税務署にお尋ねください。

まずは、「ふるさと奈良県応援寄附申込書」を総務広報課にご提出ください。ご寄附申込書様式は、ホームページに掲載しています。郵送、FAX、メールでも申込書をお送りしていますので、詳しくは総務広報課までお問合せください。

【奈良県立医科大学 総務広報課 未来への飛躍基金】

TEL : 0744-22-3051 (内線 2803) E-mail : hiyakukikin@narmed-u.ac.jp

【未来への飛躍基金 HP】 <https://hiyakukikin.narmed-u.ac.jp> または「未来への飛躍基金」で検索！



看護部の紹介

2024年度チェンマイ大学との学術協定に基づくチェンマイ大学病院への看護師派遣支援 (2024.11.11 ~ 11.22)

C棟3階 福山 久美子

チェンマイ大学との学術協定により、2週間チェンマイ大学病院へ研修に参加しました。タイの医療制度やチェンマイ大学病院の医療システムを中心に、私が学びたいと考えていた集中治療における終末期医療や意思決定支援についてなどが盛り込まれていて、とても魅力的なテーマで研修が構成されていました。緩和ケアやACP、スピリチュアルケアについて講義で学び、タイ伝統医療の施設見学や、ICU病棟、緩和ケア病棟の見学にも行くことができました。私が一番印象に残ったことはスピリチュアルケアについての学びです。スピリチュアルケアでは、患者の精神的ニーズの把握を重要視し、患者が大切にしている様々な物事を入院中でもできるだけ継続できるように、患者の日常に繋げることを大切にしていました。患者の話に対して常に「なぜ?」と問いかけながら傾聴し、患者のニーズや価値観を把握していました。ICUで勤務していると、患者は様々な医療機器に囲まれた環境で過ごし、制限も多く、日常から離れてしまうことが強いのではないかと感じていました。

研修を通して、高度な医療を提供するなかでも患者が大切にしている習慣や物事に繋がりをもてるようなケアを大切に、患者の価値観に寄り添った医療や看護を提供していきたいと思いました。終末期医療や意思決定支援に関しても、まずは患者の価値観を把握し一緒に治療の目標を設定することが大切であると改めて感じました。今回の研修では様々な学びを得ることに加え、海の向こう側で志高く、より良い看護の提供に燃える仲間にも出会うことができました。今まで知らなかった世界を知ることができたこの経験は、私にとってかけがえのないものとなりました。

C棟6階 上月 葵

少子高齢化社会という日本と同じ問題を抱えているタイの医療体制、また近年日本でも増加傾向であるナースプラクティショナーを約30年前から導入しているタイでの医療提供について学びたいと思い、この研修に参加しました。2週間の研修の中でタイの医療や保険制度、伝統医療に関して知ること、またICUや透析室、一般病棟などを見学し当院との違いを学ぶことも出来ました。タイの医療制度を学ぶ中で、タイでは保険の違いだけでなく住んでいる地域によっても医療サービスが異なることを初めて知りました。日本と同じように、どこに住んでいても誰もが同じ医療を受けられる環境ではありません。LINEアプリを活用し、退院後指導や自宅で状態悪化時の相談対応を受けられるようなサービス提供を充実させている点に驚きました。また、様々な部門に特化したナースプラクティショナーの育成プログラムがあり、今後日本で必要とされている看護師の役割の拡大が行われていました。そして、そのシステムが定着している実際を見学し学ぶことが出来ました。今回の研修で現地のスタッフと直接意見交換や情報共有を行うことで新たな知見を広げることが出来ただけでなく、改めて患者に合わせた医療提供について考える機会にもなりました。この2週間の研修でも貴重な経験をさせていただきました。今後もこうした交流を継続し互いに刺激し合いより良い医療を考えあえる存在でいたいと思います。今回の研修でサポートして下さった皆様に感謝致します。またこの交換研修に興味のある方は、是非参加し異国の医療や文化の違いを実際に経験して様々な刺激を受けていただきたいと思います。是非参加をご検討ください。



記念写真



研修風景



みなさんと

令和6年 秋の叙勲受章

元 看護副部長 錦 三恵子

この度、令和6年秋の叙勲に際しまして、瑞宝単光章を賜り身に余る光栄と深く感謝いたしております。長きにわたり看護業務に携わることができたのは、諸先輩や多くの方々からいただいたご指導ご支援の賜物と心よりお礼申し上げます。

今後もこの栄誉に恥じることはないよう精進して参りたいと思います。



診療における生成系AI利用についての現状と課題

戦略的医療情報連携推進講座・教授/医療情報部・部長 玉本 哲郎

2024年12月に奈良県立医科大学において、生成系AI利用ガイドライン¹⁾が制定された(図1)。生成系AIは教育・研究活動において利活用が期待されており、教職員・学生が生成系AIを適切に利活用することを目的としている。生成系AIは、教育・研究活動の質向上と学生の学びの促進に大きく貢献する可能性を秘めているが、その一方で、様々な課題も存在することを認識し、適切に利活用することが重要である。奈良県立医科大学のガイドラインをMicrosoftのCopilotを用いて、7つの項目部分を要約した結果を示す(図2)。意外とよくまとめられているように思われた。主な項目としては、「情報の精度確認」、「著作権の確認」、「個人情報の保護」、「偏見の排除」、「学術的不正行為防止」、「生成物の明示」、「違法行為の禁止」である。しかしながら、制定されたガイドラインの範囲は、教育と研究に限定されており、診療については対象外となっている。そのため、少なくとも本学の現状では、診療で生成系AIを利用については慎重に対応せざるを得ない状況である。あえて生成系AIで利用可能と考えられるのは、薬機法で認められている内視鏡や放射線画像の診断支援や、診断書や退院サマリの作成支援などである。

今後、本学の診療で生成系AIを積極的に利用していくためには、奈良県立医科大学附属病院で診療における生成系AI利用ガイドラインが制定されることが望ましいが、現状ではハードルは高い。これを代替するものとして、2024年10月に非営利公益法人医療AIプラットフォーム技術研究組合が作成した「医療・ヘルスケア分野における生成AI利用ガイドライン」が参考にな

る。医療AIプラットフォーム技術研究組合は、厚生労働大臣および経済産業大臣に認可され、医療AIサービスの普及・発展に資する業界共通の基盤技術として、医療AIプラットフォームの研究開発を事業目的とし、医療AIプラットフォームの社会実装に向けた検討を推進してきた団体である。

この医療AIプラットフォーム技術研究組合のガイドラインは、88ページにおよび詳細なもので、1章の医療・ヘルスケア分野における生成AIでは、生成AIの特徴、医療ヘルスケア分野での生成AIの利用可能性と利用時のリスクについて概説し、2章の生成AIの利用者が特に注意すべきポイントでは、個人と組織におけるそれぞれのポイントを説明し、3章の生成AIの開発者が特に注意すべきポイントでは、生成AIの開発者を定義した上で注意すべきポイントを説明し、4章の生成AIのユースケースとリスク・対策例では、以下の現状想定されている8つのユースケースごとに(図3)、リスク・対策例を詳細に記載されている。最後の5章では、今後の本ガイドラインの展望をまとめている。

生成系AIを診療に利活用したいと考えている方々は、「医療・ヘルスケア分野における生成AI利用ガイドライン」の一読をおすすめする。

参考文献

- 1) 生成系AI利用ガイドライン. http://www.narmed-u.ac.jp/university/kenkyu-sangakukan/documents/aigaidorain_20241205re.pdf
- 2) 医療・ヘルスケア分野における生成AI利用ガイドライン. https://haip-cip.org/assets/documents/nr_20241002_02.pdf

奈良県立医科大学 生成系AI利用ガイドライン

制定 令和6年12月5日

生成系AI(Generative AI)は、近年、急速に発展しており、教育・研究活動においても利活用が期待されています。教職員・学生が生成系AIを適切に利活用するため、以下に生成系AIの適切な利活用に関するガイドラインを示します。

1. 生成系AIの出力は、常に正確な情報を含むとは限りません。懐疑的な視点を持ち、出力結果を鵜呑みにせず、他の信頼できる情報源と照らし合わせて真偽を必ず確認しましょう。
2. 生成系AIを利用して得た情報は適切に引用し、利用前に必ず著作権を確認してください。他人の著作物を複製する形で生成物を生成する行為やインターネットを介して公衆にその生成物を送信する行為などは、著作権法上(例外を除く)、著作権の侵害になるため、絶対にしないでください。
3. 生成系AIを利用する際は、個人情報や機密情報の漏洩リスクを考慮し、オプトアウト設定の活用や利用規約の確認を徹底してください。特に個人情報や成績、研究データなどを扱う際には厳重な管理が必要です。未発表の研究成果や個人情報等は不必要に入力しないでください。
4. 生成系AIを利用する際は、AIが機械学習することを考慮し、偏見や差別的な言語を避けるように注意してください。公平で尊重される環境を保つため、差別や偏見を助長する情報を生成・共有しないでください。
5. 学術的な議論や研究活動において、生成系AIから得た情報をそのまま自身の成果物とすることは、学術的不正行為となる可能性があります。また、生成系AIの出力結果をそのままレポートや論文に活用することも、不正行為となる可能性があります。学生は生成系AIを利用する場合は、授業科目によって異なりますので、担当教員の指導に従ってください。
6. 生成系AIの結果を公開する際は、その生成物がAIによって作成されたものであることを明示し、利活用したツールや方法を明らかにする必要があります。
7. その他不適切な目的や違法行為に生成系AIを利用しないでください。

生成系AIは、教育・研究活動の質向上と学生の学びの促進に大きく貢献する可能性を秘めています。しかし、その一方で、様々な課題も存在することを認識し、適切に利活用することが重要です。本ガイドラインも、技術の進展や社会的な動向を踏まえ、随時見直しを行っていきます。本ガイドラインを参考に、生成系AIを効果的に活用し、主体的な学びと学術倫理の遵守を心がけ、より良い教育・研究活動に繋げていきましょう。

《用語解説》

- ・生成系AI(Generative AI):さまざまなコンテンツを生成できるAIのこと。従来のAIが決められた行為の自動化が目的であるのに対し、生成系AIはデータのパターンや関係を学習し、新しいコンテンツを生成することを目的としている。
- ・オプトアウト:あらかじめ利活用する内容の詳細をWebサイト等で公開し、利活用される可能性がある人物が拒否できる機会を設けること

図1. 奈良県立医科大学 生成系AI利用ガイドライン

Microsoft365のCopilotによる奈良県立医科大学の生成系AI利用ガイドラインの要約

1. 情報の精度確認	生成系AIの出力は必ずしも正確であるとは限りません。他の信頼できる情報源と照らし合わせて確認が必要です。
2. 著作権の確認	生成系AIを使用して得た情報は適切に引用し、必ず著作権を確認する必要があります。他人の著作物を複製・送信する行為は著作権侵害となります。
3. 個人情報の保護	生成系AIを利用する際は、個人情報や機密情報の漏洩リスクを考慮し、オプトアウト設定や利用規約を確認してください。
4. 偏見の排除	AIが機械学習することを考慮し、偏見や差別的な言語を避けるよう注意が必要です。
5. 学術的不正行為防止	生成系AIの出力結果をそのままレポートや論文に利用することは学術的不正行為となる可能性があります。
6. 生成物の明示	生成系AIの結果を公開する際は、それがAIによって作成されたものであることを明示し、利用したツールや方法を明らかにする必要があります。
7. 違法行為の禁止	不適切な目的や違法行為に生成系AIを利用しないことが求められます。

図2. Microsoft365のCopilotによる奈良県立医科大学生成系AI利用ガイドラインの要約

生成AIのユースケースの全体像

ユースケース名	利用例	主な利用者
① ドキュメントワーク支援	生成AIに問診内容や診療内容を入力し、問診票やカルテ等のドキュメント作成等を行う。	医師、医療事務職員、看護師、検査技師等
② 診察・診断支援	診察前に問診票データ等を生成AIに投入し、可能性の高い複数の病名を根拠と共にサジェスト表示する。	医師、検査技師、医療事務職員等
③ 患者等への説明・接遇支援(患者等とのコミュニケーション)	外国の方を診察した際に、診察結果を生成AIに投入し、外国の方へ説明する際に自然で分かりやすい表現に翻訳する。	医師、看護師、薬剤師、医療事務職員等
④ 患者フォローアップ支援	生成AIに処方箋等の内容を入力し、服薬指導等のフォローアップメッセージを作成し、薬剤師の確認・修正等を行った上で、薬剤師が対面またはオンラインで患者へ説明する。	医師、薬剤師等
⑤ 患者トリアージ	来院患者が入力した問診フォームの内容を生成AIに取込み、流行感染症への感染疑いを判別し、疑いのある患者を医師等にアラートする。	医師、受付職員、患者等
⑥ 研修支援	検査画像等の医療データを生成AIに大量に取込んで学習し、研修教材として活用可能な検査合成画像やケーススタディ等を作成する。	指導医等
⑦ 研究データ処理・分析支援	複数の研究論文を生成AIに取込み、複数の研究データ内容を要約した文章を作成し、研究等に活用する。	研究者等
⑧ デジタルセラピー	精神疾患患者のカルテ等データを生成AIに取込み、認知療法等に活用可能なAR/VR画像を作成する。	医師、作業療法士等

図3. 生成AIのユースケースの全体像(文献2)を改変して引用

9.23 奈良県立医科大学健康フェア 2024 を開催しました

9月23日(月・祝)にイオンモール橿原の1階スターライコートと3階イオンホールにて奈良県立医科大学健康フェア2024の「みんなで健康安全LIFE」を開催しました。

スターライコートでは、奈良県立医科大学医学科・看護学科の学生を中心に看護体験ブース、聴診・臓器エプロンブース、心臓マッサージ・AED体験ブース、ぬいぐるみ病院、クイズ大会、スタンプラリーなどを実施し、子どもたちに医療の体験をしていただきました。ステージ企画として奈良県広域消防組合の皆さんによる「タスケルンジャーショー」(心臓マッサージ・AEDの普及活動を目的としたパフォーマンス)で会場に集まった大勢の観客を盛り上げていただきました。救急車を搬入しての救急車体験ブースや火災予防啓発ブース、救急車との記念撮影なども実施いただきました。

イオンホールでは、医師・看護師・学生による企画を実施しました。整形外科と理学療法士のチームでは、下肢運動機能評価の評価として「立ち上がりテスト」や「2ステップテスト」を体験いただきました。救急科のチームでは、「一般市民を対象とした口頭指導による蘇生処置の体験」、麻酔科・周術期チームで

は手術前から実施できるプレハビリテーションの紹介、お口のケアや「オーラルフレイル」についての情報提供などを行いました。栄養ブースでは、医師・管理栄養士による栄養相談と塩分・糖質などの食の情報展示・食育ミニゲームを行いました。臓器供意思表示ブースでは「意思表示カードとリーフレット」配布をさせていただきました。学生ブースと医師ブースの2会場をつなぐスタンプラリーも行いご家族やその他多くの皆様にご参加をいただきました。市民の皆さんの健康ライフの一助になればと期待しています。



9.27 12.20 軽音楽部による院内コンサートを開催しました

軽音楽部 医学科4年 第64代部長 本条 華奈子

9月27日及び12月20日、本学附属病院にて本学軽音楽部が約10年ぶりとなる院内コンサートを開催いたしました。軽音楽部は“The Hardstream Orchestra”としてビッグバンドジャズを演奏する、60年ほど続く部活動です。今回はジャズのみならずディズニーの曲や演歌など親しみやすい曲も演奏し、患者様に音楽を通して元気をお届けできたと思います。部長の私自身も子どもの頃本学附属病院に入院した際、院内コンサートからとても元気をもらった経験があり、院内コンサートの開催は長年の夢でした。コンサート中、患者様がリズムに合わせて体を揺らし、手を叩き、そして笑顔になってくださる姿をみて、改めて音楽の力を感じました。とても心温まる素敵なコンサートとなりました。

最後になりましたが、開催にあたりご協力いただいた教職員のみなさまに感謝申し上げます。



10.6 全日本医科学生 体育大会王座決定戦でも活躍!

2024年度全医体(全日本医科学生体育大会王座決定戦〈西医体と東医体の上位校が出場〉)にて、次の2クラブが好成績をおさめましたのでご報告します。

弓道部：(男女混合)団体戦 優勝

卓球部：女子団体戦 準優勝

弓道部 医学科3年 主将 寺谷 仁良

熊本県植木弓道場で開催された全医体で、創部71年の弓道部として25年ぶり5回目の優勝を収めました。西医体・全医体での好成績は全部員が日々練習に励み努力してきた成果で大変嬉しく思います。さらにOB・OGの先生方と関係者の皆様のお力添えのおかげです。心より感謝申し上げます。今後も部員一同、文武両道に励みます!



(上段左から)井内良、石田彩乃女責、新原璃恩、五十嵐昂、寺谷仁良主将、上田玲央斗、長江和葉(下段左から)吉川公彦病院長(前部長)、三上拓也前主将、細井裕司理事長、藤井碧前女責、杉江和馬脳神経内科教授(現部長)

9.25 令和6年度臨床 PBL 症例報告会を開催しました

臨床教育部長 庄雅之

去る9月25日(水)に臨床PBL症例報告会を開催いたしました。今回は自薦による3名を含む計6名の学生が発表を行いました。発表内容はいずれも非常に充実しており、質疑応答も活発に行われました。質問内容も高度なものが多く、本学学生の能力と素質の高さを改めて実感する機会となりました。来年度以降も、さらに内容を充実させて本報告会を継続して参ります。本年度ご指導いただきました教員の皆様に厚く御礼申し上げます。臨床教室の皆様におかれましては、今後とも本学の臨床実習のさらなる充実にご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

医学科6年 赤樫 晴斗

発表者に推薦された時、症例報告の経験があまりなかった自分に務まるのかと悩んでいたのですが、せっかくの機会であると思い発表をさせていただくことになりました。子宮筋腫というcommonな症例で、自分が同輩に何を伝えたいのか、伝えられるのかを考え、指導医である河原直紀先生と相談しながらスライドを作成しました。他にも産婦人科の医局で発表を行い、先生方からの貴重な意見を頂戴したり、どんな疑問点にも答えられるようにガイドラインを読み込んだりと、自分ができることはすべてやるという気持ちで準備し発表に臨みました。この発表を通して、疾患の知識だけでなく資料作成の技術や質疑応答への対応、発表時間の管理など多くのことを学ぶことができました。最後に、様々な意見をくださった産婦人科スタッフの皆様、一緒に資料の添削・修正をくださった河原先生に感謝申し上げます。



左から、坂部超さん、瀬木はるかさん、大上侑里子さん、赤樫晴斗さん、河本由希さん、馬淵主基さん(受賞者6名)

医学科6年 河本 由希

このたび臨床PBL症例報告会において、臨床実習中に経験した症例について発表させていただきました。演題は「B細胞枯渇療法中に視神経脊髄炎の再発とともに帯状疱疹を発症した一例」です。視神経脊髄炎と帯状疱疹との関連性やB細胞枯渇療法について考察し発表いたしました。今後医師として多くの症例に向き合っていく第一歩として、貴重な経験になったと同時に、考察を深めている中で自分自身の医学研究への関心がこれまで以上に強まり、将来基礎と臨床の両側面における研究に携わっていききたいという思いを再確認する機会ともなりました。このような貴重な機会を設けてくださいました庄雅之先生、そして発表にあたりご指導賜りました杉江和馬先生、桐山敬生先生、七浦仁紀先生をはじめ脳神経内科学の先生方皆様にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。この経験を糧に、今後も精進してまいります。

10.3 12.5 奈良医大発ベンチャーを認定しました

本学では、本学で達成された研究成果等を活用して設立された企業に「奈良医大発ベンチャー」の称号を付与しています。このたび、新たに2社を奈良医大発ベンチャーに認定しました。

1社目は本学化学教室の酒井宏水教授の人工赤血球に関する研究成果をもとに設立された株式会社オキシキャリアです。同社は物用医薬品および診断薬の研究、開発、製造、販売に取り組んできた実績を活かし、動物用およびヒト臨床用の人工赤血球の開発を目指しています。同社は奈良医大での高度な研究成果を社会へと還元し、医療分野において新たな価値を創造する先進的なベンチャーです。



(左) オキシキャリア代表取締役 山口智宏氏
(右) 酒井宏水教授

2社目は本学放射線診断・IVR学および総合画像診断センターの読影技術をもとに設立されたNPO法人MBT奈良画像診断・IVR支援ネットワークです。同法人は画像の高品位送受信技術を用い、地域医療機関で発生したCTやMRI等の医用画像に対し当該施設に赴くことなく適宜診断支援を行うとともに、画像の品質管理やIVRに関する支援を行います。また将来的には共同サーバーを設置することで画像を介した奈良県全域での遠隔画像診断やカンファレンスが可能となり、本学放射線診断・IVR学と連携し、より質の高い画像診断・IVR支援を地域医療機関に提供することを目指します。



(左) NPO法人設立を支援した放射線診断・IVR 田中利洋教授
(右) NPO法人理事長 阪口浩氏

10.12 サンライズジャパンプノンペン病院との包括協定を締結しました

この度、10月12日にサンライズジャパンプノンペン病院（カンボジア）との学術交流に関する協定書を締結しました。本協定締結により、本学学生の現地での臨床実習が可能になります。交流事業の先駆けとして、令和7年4月開始の当院初期臨床研修プログラムの一部を海外で実施できるよう、「初期臨床研修の実施に関する覚書」も併せて締結しました。覚書締結の目的は、医療に対する国際的な視野と経験を持つ若い医師の育成です。厚生労働省から、初期臨床研修の「選択科目」の一環として、海外での見学ではない実際の医療行為を含む研修を実施できる許可を得たことから、今回の計画を前に進めることができました。

10月14日に現地で行われた包括協定締結に合わせ、伊藤医学科長ならびに臨床研修センタースタッフ2名（仲西副センター長・平石係長）も現地を訪問し、現地におけるソフト面（診療方法やカンファレンス等）、ハード面（病院の施設、設備）、さらに研修医や学生が生活する衣食住環境を確認し、先方スタッフと意見交換を行いました。

サンライズジャパン病院は、日本の医療技術の輸出と現地の医療人材育成を目的に、2016年10月に日系資本で日本人・現地の臨床スタッフが共に働き運営する病院として、カンボジアの首都、プノンペンの中でも新しく開発の進む治安の良い立地に設立されました。同院は救命救急科や総合内科、一般外科など15診療科を標榜し、50の病床数を有し、日本人医師5名を含む約300名の病院スタッフで運営されています。手術室や内視鏡、MRI、CTなどは日本の標準的な市民病院と同等以上のものを取り揃えており、ハイレベルな医療が可能です。日

本人は医師の他に、事務職、理学療法士が在籍していますが、英語でのカンファレンスや実際の医療行為を通じて現地医療スタッフに医療現場でのノウハウを伝えることができる、教育能力・コミュニケーション能力の高いスタッフが揃っていると感じました。患者との会話は、看護師によるクメール語と英語の通訳を介していますが、それも現地スタッフの教育となるよう配慮されているとのことでした。

カンボジアは、厚生労働省と現地当局への申請により、日本の医師免許だけで医療行為が許可される数少ない国であることが、今回の協定を締結した最大の理由です。カンボジアの医療は、過去の歴史的背景により東南アジア諸国の中でも大きく遅れており、さらには保健医療体制も整っていません。実際にサンライズジャパン病院では、例えば初診料は60米ドルかかり、高度な治療を継続して行える患者は、カンボジアの社会全体から見ると一部の富裕層に限られます。サンライズジャパン病院での医療は、完全な慈善事業ではなく企業の出資によるものです。しかし、決して短期的な営利を目的とした医療を前提としておらず、良心的でコストを常に意識した医療が行われていました。病院が設立後8年間に渡り現地の患者とその家族、病院のスタッフの信頼を得てこられた背景には、高いプロフェッショナル意識に基づく臨床能力と教育能力があると現地視察で感じました。

文化や経済の異なる海外での臨床実習・研修は、本学が目指す国際舞台で活躍できる医師の育成、さらには医療技術のみならず医療経済の観点や、コミュニケーション能力を身につける上でも、学生や研修医にとって大変有意義になると考えられます。



病院外観



手術室



協定締結式



健診センター

10.12

けいはんなプラザで上映会を開催しました

MBT 難病克服キャンペーンの一環として、毎年「MBT 映画祭」を開催しています。この映画祭は、映像作品を通じて、希少な疾患ゆえに社会から孤立しがちな難病患者的苦境を多くの方々に理解していただくことを目的としています。

通常は毎年東京で開催していますが、関西在住の皆様にも参加いただきたいという想いを込めて、10月12日(土)に関西文学術研究都市のけいはんなプラザ・メインホールにて、過去の入賞作品7本の上映会を実施しました。

上映に先立ち、MBT スタッフが開催の趣旨を含めた挨拶を行い、その後、作品「愛を抱くということ」を応募して入賞された監督の宮田悠史氏が、作品に込めた想いをスピーチされました。

上映会終了後には、多くの観覧者から「感動した」「来年も続けてほしい」といった感想をいただき、激励の声が寄せられました。



10.20

奈良県防災総合訓練にMBTブースを出展しました

2024年度奈良県防災総合訓練は、10月20日(日)、秋晴れの好天に恵まれる中、奈良市都祁生涯スポーツセンターにて開催されました。本訓練には、団体・企業・行政機関など計79機関が参加しました。

MBT 研究所は、奈良先端科学技術大学院大学 (NAIST) の協力を得て、今年で5回目となる展示デモに参加しました。今年の展示デモでは、大地震発生を想定した訓練のシナリオに基づき、「通信が遮断された山間部の避難所に多数のけが人や急病人が医療救助を待っている」という状況を再現したデモを行いました。

具体的には、NAISTの衛星通信車、MBT 関連企業である(株)M-aidのオンライン診療車、そして(株)タカゾノの移動薬局車という、3種類のモビリティを活用したデモ展示を行いました。

展示ブースを視察された山下真奈良県知事は、この3点セットの展示に深い関心を示され、予定時間を大幅に超過して熱心に質問をされる場面もありました。



山下知事への展示ブース概要説明の様子

10.13

着物でジャズ今井町 2024 を開催しました

令和6年10月13日(日)に今井町 順明寺にて着物でジャズ今井町 2024 を開催しました。コロナ禍で中止していましたが、5年ぶりの開催となりました。2014年11月22日(土)に第1回目を開催して以来、年1-2回、2019年までに計9回開催しており、今回で10回目になります。本学は医学を基礎とするまちづくり (Medicine-based town: MBT) を進めており、その一環として橿原市にある今井町で、アート×医療で健康長寿を推進することを目的としています。伝統あるまちで、文化、芸術そして医療を融合させた“心のバリアフリー”を体験していただければと考えています。伝統と文化を守り続けてきた今井町並み保存会の方々と奈良県立医科大学の関係者、また有志の方々と協力して、企画・開催しています。演者・スタッフは全員着物(和装)でお出迎えしました。若林梅香さんの書道パフォーマンスに始まり、奈良医大軽音楽部ハードストリームオーケストラの演奏・奈良医大ライブワイヤー部 Mrs. RIPE APPLE のライブ・奈良医大ダンス部団子8兄弟のK-popダンスパフォーマンスが行われました。ゲストのK-106・RISACO・コノハコトノハさんの素晴らしいライブに会場は魅了されました。司会を担当された狸山みほとんは、フレッシュで親しみ感のあるトークで会場を盛り上げてくれました。奈良医大の健康相談ブース、東洋医学研究会の健康茶のブースなど、健康に関する情報も提供しました。今回は、会場入り口にBOXを設置し共催金として入場料をいただき、多くの方々にご協力いただきました。市民の皆さんの健康維持の一助になればと期待しています。



10.22
11.26
12.17

ならコープにて「フレイル チェック」を行いました

ならコープ集会室(なんごう・たつたがわ・いこま)にてMBT研究所が「フレイルチェック～測定して自分の現状を知ろう～」をテーマにした4回シリーズの測定・講座を行いました。(毎月第三火曜日)

MBT研究所 梅田副所長は、今後病気にならない身体をつくるためには、簡単な筋トレの継続・人との交流・食生活など身体的・心理的・社会的健康を維持することが大切と講演されました。また、All in One 装置で睡眠の質やストレスの蓄積他ライフスタイル健康度の測定を行い、参加者からは「フレイルという言葉はよく聞かすが、詳しく聞けて良かった、生活の中で活かしていきたい」「健康意識が高まった、データ変化が楽しみ」などの感想が寄せられました。

MBTは今後も健康とまちづくりをテーマとして、地域コミュニティを深め、積極的に展開を図っていきます。



講演に聞き入る参加者 All in One 装置で測定の様子

10.28
11.25
12.18

MBT 研究所運営会議を 開催しました

月に一度のMBT運営会議では、新産業創生やまちづくりに関わる産学連携テーマの進捗報告や、新たな産学連携テーマ掘り起し活動などの報告、更にはMBTコンソーシアムと連携して行う社会貢献活動の取組みについて、情報の共有や課題対応策の検討を行っています。現在推進中の「MBT 難病克服キャンペーン」では、2025年1月18日に東京大手町の日経ホールで開催する“第4回MBTみんなで守るいのちの映画祭”の応募作品審査状況や、特別ゲストに渡辺謙さんを迎えての特別上映を含む進行プログラムについても検討しました。今後、大阪・関西万博に向けての展示打診もきており、引き続きMBT活動の発信を検討してまいります。



10.26
10.27

令和6年度奈良県立医科大学大学祭 白檀生祭を開催しました

令和6年度白檀生祭実行委員長 医学科5年 朝井 啓斗

10月26、27日に本学大学祭の「白檀生祭(かしふさい)」を開催しました。今年度のテーマは「君となら、」です。学生には本学や奈良に愛着を持ってもらい、来場者には大学のことを知ってもらいたいという思いのもと、企画しました。今年度は元プロ野球選手の鳥谷敬さん、ロックバンドの超能力戦士ドリアン、芸人の紅しょうが、モンスターエンジン、青空の岡さんをお呼びしました。今年はステージを1つ増設し、2箇所を設置したことで、より多くの学生がより長く出演することもでき、例年以上の盛り上がりとなったように感じております。同時に、楽しい思い出を持ち帰るだけでなく、医学や大学の取り組みなどを知って帰ってほしいとの考えから、本学の先生方による「ミニ講演」や、医学書に触れられる「古本市」などを企画しました。医科大学だからこそできる、貴重な体験を提供できたのではないかと思います。今年度も医学科5年生、看護学科2年生の実行委員が中心となって運営しました。さらに開催にあたり、大学内外から多くの方々にご支援、ご協力をいただきました。皆様のご協力があったからこそ大学祭を成功させることができました。この場をお借りして、大学祭に関係して下さったすべての方に深く御礼申し上げます。



令和6年度 白檀生祭実行委員会

10.31
11.1

Challenge 万博に出展しました

「2025年大阪・関西万博」で世界から注目を集める関西主要大学の研究シーズや、全国各地の大学発スタートアップが東京に集結し、首都圏の企業やベンチャーキャピタルに対して大学発スタートアップエコシステムをPRするイベント「第4回Challenge 万博」が、東京・大手町の三井住友銀行本店東館で開催されました。

本学からは、昨年4月に開設された「オートファジー・抗老化研究センター」のセンター長である中村修平教授が、『オートファジー・抗老化研究の目指すもの』というタイトルで講演を行いました。また、展示ブースでは研究内容をポスターやチラシを用いて紹介しました。

MBTは、同センター設立以来、企業と中村教授との共同研究マッチングを支援しており、展示ブースでは立ち寄った企業やベンチャーキャピタルの関係者に研究への参加を積極的に呼びかけました。



大阪・関西万博公式キャラクターのミャクミャクと中村修平教授

11.9

同志社女子大学・奈良県立医科大学学術交流に関する包括協定に基づく合同講演会を開催しました

11月9日(土)に本学と同志社女子大学の共催による合同講演会を奈良県コンベンションセンター天平ホールにおいて開催しました。

当講演会は同志社女子大学と本学が毎年交互に開催しているもので、今回は「健康な生活のための食事と栄養」をテーマに、本学附属病院栄養管理部・藤田幸男部長より「バランスの良い食事で健康長寿を目指そう」と題して、同志社女子大学生活科学部・奥村仙示准教授より「カロリー密度に注目した無理のない食べ方のコツーデンシエット(Densiet)ー」と題して、それぞれ講演いただきました。

講演では、食習慣の見直しや食欲に応じた食べ方のコツについて、わかりやすく説明をいただき、楽しい講演会となりました。会場には、県内外から約120名の参加があり、テーマに関する関心の高さが伺えました。



講演会の様子



嶋副学長による開会の挨拶



講演を行う藤田部長



講演を行う奥村准教授



山本生活科学部長(同志社女子大学)による閉会の挨拶

11.14

第6回連携登録医のつどいを厳橿会館で開催しました

平成25年から始めました「連携登録医のつどい」も感染症等の影響で中断はありましたが、今年度で第6回を迎えることができました。

第1部の講演会では、医療法人優心会 吉江医院・歯科 吉江貫 理事長から「開業して30年を過ぎて思うこと〜かかりつけ医、病診連携など〜」と題して、地域の方々に寄り添い、相手の立場に立って顔の見える関係づくりに努めてきたこと、地域で医療ICTが進みにくい現状等について開業医の立場からご講演をいただきました。

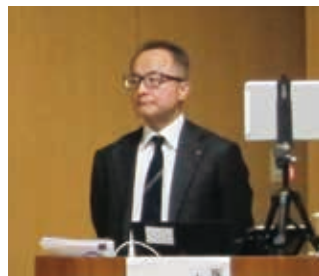
続いて、当大学 地域医療学講座 周藤 俊治 准教授からは「紹介患者の外来診療実績に基づく動向について」と題して、医療情報分野の専門家として、実際の請求データを分析した患者状況から、奈良県の医師確保に至るまで、幅広いご講演をいただきました。

第2部は情報交換会として、当院各科医師から診療科としてとくに力を入れていることなどについて紹介を行い、参加者の皆さまとご歓談いただきました。

限られた時間でしたが、今後も地域医療機関の皆さまと更なる信頼関係を築き、スムーズな地域連携ができるよう「連携登録医のつどい」を開催してまいります。



講演会の様子



医療法人優心会
吉江医院・歯科 吉江貫理事長



地域医療学講座 周藤 俊治 准教授

11.16

MBT 実証実験説明会を実施しました

電力データを活用した「地域の健康見守り」が、新たに北海道喜茂別町、長野県売木村、福井県おおい町、沖縄県南城市などで始まりました。

家電の使用状況から在宅時のライフスタイルを把握、家電別の電力使用データを分析し、生活の変化が起こった時に速やかに対応する実証実験で、MBT 研究所 梅田副所長が 住民向け説明会やセミナーを各地で実施しました。

1 分に 1 点の電力データを用いたライフスタイルセンシングは、各地域それぞれの課題解決、高齢者や一人暮らし世帯の見守り対応など、地域の安心・安全な暮らしを支援する新たな仕組みとして注目されており、今後も新しい展開を図っていく予定です。



北海道喜茂別町住民に向け説明される梅田副所長

11.23

第 8 回臨床研究 県民公開講座を開催しました

臨床研究センターは、11月23日(土・祝) 奈良県コンベンションセンターにて、第8回奈良県立医科大学附属病院 県民公開講座「未来への医療—県民とともに創る 未来への医療—共に学び 共に支える 未来への架け橋—」(後援：奈良県、奈良市)を開催しました。今年は、会場参加により実施し、130名近くの県民にご参加頂きました。笠原正登 教授(臨床研究センター)による開会の挨拶の後、武内治郎講師 座長の下、五十川雅裕助教(臨床研究センター)による「臨床研究・治験を知ろう!」に続き、吉本清巳 教授(総合医療学講座)からは、「知っておきたいリウマチ・膠原病!」、杉江和馬 教授(脳神経内科学講座)からは、「脳梗塞・認知症の最前線!」についての講演をいただきました。



11.26

医学部医学科「白衣授与式」を行いました

11月26日に、医学科4年生115名の白衣授与式を執り行いました。

初めに細井学長から医師としての将来展望について講話があり、その後、代表学生4名に「臨床実習生(医学)証」が手渡されました。

続いて、学長・医学部長・附属病院長・同窓会長からそれぞれに白衣が授与され、学生は医学科同窓会から寄贈された真新しい白衣に袖を通したのち、吉川附属病院長からの訓示、高橋同窓会長から激励のお言葉をいただきました。

最後に、学生を代表して総代の吉田彪晟さんが、これから始まる臨床実習で、真摯に実習に取り組み、医師としての自覚と責任を養っていくことを誓いました。



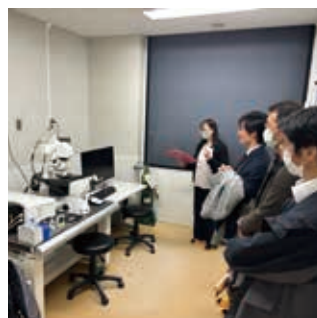
本学大講堂にて

11.28

奈良先端科学技術大学院大学 見学会を開催しました

本学と奈良先端科学技術大学院大学は連携協定を締結しており、研究者交流会、共同研究助成事業など様々な連携活動を行ってまいりました。今回、連携活性化の新たな取り組みとして、奈良先端大の研究室・研究機器の見学会を開催しました。多数の研究者の方々にご参加いただき、奈良先端大の最新鋭の研究機器を見学しました。見学会後には、研究者同士の交流会も開催され、互いの研究分野について理解を深めました。

今後も本学と奈良先端大の連携を深め、学術・研究活動のさらなる発展に貢献できるよう、様々な取り組みを積極的に推進していきます。



見学会の様子



交流会の様子

11.28 11.29 **イノベーションストリーム KANSAI8.0に出展しました**

イノベーションストリーム KANSAI 8.0 は、大阪・関西地域を拠点とした産学官連携による地域発イノベーション創出を目指した、大規模な展示会・カンファレンスです。2024年11月28日(木)および29日(金)に、グランフロント大阪のナレッジキャピタルとグラングリーン大阪を会場として開催されました。

本イベントでは、32の機関が出展し、関西を中心とする大学や企業、ベンチャーキャピタルなど多くの関係者が会場を訪れました。各展示ブースでは活発な質疑応答が行われ、会場は大いに盛り上がりました。

本学からは、先端研究に関する以下の取り組みをポスター、チラシ、動画を用いて紹介しました。

- 1) 生化学講座の中村修平教授による「オートファジーを活用した寿命・老化の制御」
- 2) 高度生殖医療センターの木村文則教授による「最新医学と技術による不妊症克服の支援」

これらの展示では、本学の最先端研究が社会や医療現場に貢献する可能性について広く発信しました。



本学の出展ブース

12.3 12.4 **2024“よい仕事おこし”フェアへ 出展しました**

先に奈良医大とMBTコンソーシアムが地域の活性化と産業振興に関し連携協定を締結したよい仕事おこしフェア実行委員会(事務局：城南信用金庫)が、東京ビッグサイトで「2024“よい仕事おこし”フェア」を開催しました。全国各地の信用金庫のお取引先や多くのバイヤーも招聘され、「よい仕事」をおこすビジネスマッチングイベントが、政界や全国の自治体首長らの来賓も駆けつけ盛大に行われ、奈良医大とMBTコンソーシアムはMBT活動をPRしました。

今回は商品化企業の支援を得て、

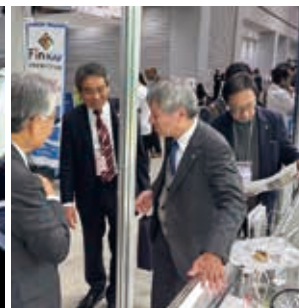
- 1) 細井裕司理事長が発見した軟骨伝導を活用した集音器付きイヤホンやヘッドホン
- 2) コロナウイルス不活化に有効な銅合金蒸着マスク(協力：やまと真空工業株式会社)
- 3) 高齢者のフレイル予防等に有効な手指機能強化手袋(協力：株式会社三笠)

の展示デモを行いました。

さらに、この機会に令和7年1月18日に開催する「MBT みんなで守る命の映画祭」への参加をチラシで呼びかけました。



ブースの様子



説明中の細井理事長

12.6 **中和保健所と連携した災害医療訓練を実施しました**

12月6日(金)16時から、附属病院で災害医療訓練を実施しました。

災害時は多数の傷病者が発生し、医療ニーズが急増するため、他機関、特に行政機関との連携が平時以上に重要となります。そこで今年度は、災害時、県中和保健所に設置される「DMAT活動拠点本部(患者の転院先やDMAT支援に関する調整を担当)」及び「中和保健医療調整本部(燃料や物資の調達等、総合的な調整を担当)」と連携し、訓練を行いました。

2時間40分にも及び長時間の訓練にもかかわらず、当院内から約60名の職員の方に参加いただき、BC棟2階職員食堂に災害医療統括部(本学災害対策本部の下部組織。災害発生時の患者の受入等、医療活動を実施)を立ち上げました。また、災害時の情報共有・集計システムである危機管理ポータルシステム(BCPortal)により院内各所から災害医療統括部に続々と報告される被害への対応を検討したほか、DMAT活動拠点本部及

び中和保健医療調整本部と患者の受入や物資の支援に関する調整を行う等、実災害さながらの緊張感のある訓練となりました。

当院は、県民の最終ディフェンスラインとして、災害から県民を守り、地域の安心を確保するための取り組みを進めています。

今回の訓練により浮かび上がった課題を確認し、災害医療体制の検証・見直し等に今後も取り組んで参りますので、引き続きご理解、ご協力を賜りますようお願いいたします。



災害医療統括部でミーティングを行う様子



訓練の講評を行う吉川病院長

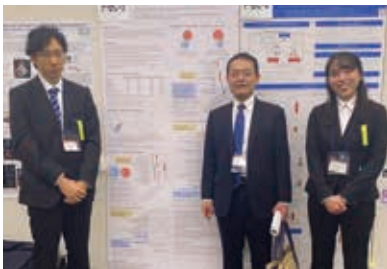
12.7

第8回日本循環器学会基礎研究フォーラムで発表しました

医学科5年 井澤 美保 (循環器内科)

医学科4年 水田 啓太 (循環器内科)

東京で開催された、第8回日本循環器学会基礎研究フォーラム (BCVR) におきまして、医学科5年の井澤美保が、「Lmna 関連遺伝性拡張型心筋症モデルマウスでのLamin A 強制発現による心機能および生命予後の改善」という演題で、医学科4年の水田啓太が「Gene expression analysis of HFpEF and HFrEF patients utilizing FFPE myocardial biopsy tissue」という演題でそれぞれポスター発表を行いました。私達は、循環器内科学の研究室で、遺伝子発現解析をはじめとした循環器疾患の基礎研究に携わっています。本学会への参加は、自身の研究成果を発表し、様々な先生方とディスカッションする中で新たな知見を得ることが出来た非常に有意義な経験となりました。最後になりますが、日々ご指導いただいております彦惣俊吾教授、尾上健児先生はじめ循環器内科学講座の先生方に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。



発表ポスターの前で

12.11

人材交流在宅看護教育プログラムの履修証明書を授与しました

12月11日に訪問看護師2名と附属病院看護師1名の計3名が「人材交流在宅看護教育プログラム」の全カリキュラムを修了し、小竹在宅看護学教授から、「履修証明書」が手渡されました。

このプログラムは、訪問看護師及び病院看護師を対象としており、在宅・病院における看護の実際を経験し、互いの現状理解を深めることで、在宅看護のリーダーを育成することを目的とした人材交流のプログラムです。

9月1日からの3ヶ月間、講義や演習の他、訪問看護師は附属病院で、附属病院看護師は訪問看護ステーションで実践を重ねました。

今後、修了生がこのプログラムで得た知見をそれぞれの現場で活かすことにより、病院と訪問看護ステーション間の連携が強化されることを期待しています。



修了式の様子

12.14

第35回日本小児整形外科学会学術集会で発表しました

医学科5年 八鳥 茉唯

12月13日、14日に福岡国際会議場で開催された第35回日本小児整形外科学会学術集会で「大腿骨良性骨腫瘍に対し骨折予防としてTitanium Elastic Nailを使用した3例の検討」という演題で発表させていただきました。

腫瘍の局在や組織型により根治治療が困難な大腿骨良性骨腫瘍に対して、易骨折性や変形の予防目的にチタン性弾性髓内釘を使用し良好な経過を得ている3症例について報告いたしました。

初めての学会発表を通して、教科書的な学習だけでなく、実際の症例を通して主治医の視点に立って物事を考えることの重要性を学ぶことができました。

大変お忙しい中にも関わらず終始熱心なご指導を賜りました藤井宏真先生、米田梓先生、梶田直希先生、田中康仁教授をはじめとする整形外科学教室の先生方に深く感謝申し上げます。



右から2人目：八鳥さん

12.17

第1回ホスピタルラボを開催しました

12月17日(火)にスキルスラボで、シミュレーション型児童医療体験『ホスピタルラボ』を初めて開催しました。今回は、小学5年生37名を対象に、診断ゲーム(心音聴取・呼吸音聴取)、検査ゲーム(超音波検査)、手術ゲーム(腹腔鏡手術)など、シミュレーターを使ったゲームを通じて医療体験を行いました。

参加した児童達は、「もう5回ゲームに挑戦したい!」などと、大いに楽しんだ様子でした。終了後に表彰が行われ、医学科同窓会高橋会長からご寄付いただいた「しょうとくた医師くんグッズ」がプレゼントされました。『ホスピタルラボ』は教育開発センター(スキルスラボ)が中心となって、同窓会、教育支援課、臨床研修センター、NLSC等多くの方々にご協力いただき、今後も発展しながら開催を続けてまいります。



手術ゲームを楽しむ児童

12.18 令和6年度第1回キャンパスミーティングを開催しました

12月18日に第1回キャンパスミーティングを大学本部棟3階小会議室で開催しました。

今回は医学科4年生総代の吉田彪晟さんが司会進行を担当し、新キャンパスに関する意見交換や、学生からの要望に関する意見交換を行いました。およそ1時間のミーティングには、医学科・看護学科各学年の総代と医学部長、看護学科長をはじめ各教育部長、広く学生支援に関わってくださる先生方、教育支援課職員が参加し、活発な意見交換が行われました。



12.19 高大連携教育を推進しています

本学では、高校生の理科に対する興味を高めるため、高校生を対象とした大学での講義、実習の体験学習を行っています。

今回は、12月19日に「DNA解析実習—プラスミドDNAの制限酵素処理とアガロース電気泳動による解析—」をテーマにして、畷傍高校の生徒17名が参加しました。

生徒感想文から一部抜粋

・実習に行く前は具体的に想像ができません、あまり乗り気ではなかったのですが、実際に実習を行ってみると楽しくて時間が過ぎるのが早かったです。たとえば、最初のマイクロピペットの使い方を教えてもらったところは、小さい単位でも水滴の大きさの変化が見てわかり面白かったです。他にも、電気泳動のときに使うゲルを触らせてもらったりと、学校ではあまり機会がない体験ができて楽しかったです。

・生まれて初めてテレビで見るとような実験ができて嬉しかったです。マイクロピペットの使い方を丁寧に教えてくださったおかげで、仲間と楽しく実習をすることができました。実習をする中で、大学の先生方の研究に対する愛がひしひしと伝わってきました。難しい手順や分量を間違えないようにクリアしていくのがとても精神を削りましたし、できた時に達成感を感じました。それとともに、とても小さな世界で緻密に研究をする人々の根性と堅実さを身に染みて感じました。



参加した畷傍高校の生徒のみなさん

・予習はしていたが、いざ実験してみると器具の使い方や薬品の用途等を教えて貰いながら実験を進めていくのはワクワクしました。最後の途切れているところを求めるのは難しかったけれど、手順やその目的について一つひとつ丁寧に教えて貰えたので、難しすぎるなんてことはなく実験も順調に進められてよかったです。とても貴重な体験をさせていただきました。

受賞者報告

Winner Report

8.31 日本小児麻酔学会学術賞(里吉光子賞)を受賞しました

麻酔科学 助教 小川 裕貴

この度、Child's nervous system 誌に掲載された「[Motor-evoked potential monitoring from urinary sphincter muscle during pediatric untethering surgery; a case series]」に対して、2024年度日本小児麻酔学会 最優秀症例報告論文学術賞(里吉光子賞)を受賞いたしました。今回の受賞を励みとして、今後も臨床および研究に邁進していく所存です。本受賞にあたり、ご指導いただきました川口教授、林講師をはじめ、麻酔科学教室や関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。



7.18 藤村吉博名誉教授が昭和天皇記念学術賞を受賞しました

平成元年に天皇陛下（現上皇陛下）と香淳皇太后の思召により、昭和天皇のご遺金が献血事業振興のため日本赤十字社に下賜されました。日本赤十字社はこのご賜金をもとに「昭和天皇記念血液事業基金」を設立し、献血事業の進行に役立てるために献血運動推進全国大会の場で血液事業に貢献のあった個人または団体に「昭和天皇記念献血推進賞」を、そして学術研究に貢献のあった個人に「昭和天皇記念学術賞」を授与しています。本学からは平成 17 年に吉岡章前学長がこの記念学術賞を授与されておられます。

さて、令和 6 年 7 月 18 日に岐阜県で開催されました第 60 回献血運動推進全国大会において、本学名誉教授の藤村吉博前輸血部教授が、奈良県立医科大学で 2 人目となる昭和天皇記念学術賞を受賞され、日本赤十字社名誉副総裁である秋篠宮皇嗣妃殿下より表彰状と記念トロフィーを御授与されました。これは藤村先生が永年取り組まれてきた「止血因子である von Willebrand 因子 (VWF) やその特異的切断酵素 (ADAMTS13) の研究」により、血液難病の血栓性血小板減少性紫斑病 (TTP) の迅速診断や治療の進歩に多大な貢献をされたことを称えるもので、以下はその推薦文の紹介です。

藤村先生は、昭和 48 年に奈良県立医科大学を卒業され、その後、同大学や国立大阪病院で小児科医として研鑽を積まれました。早くから、止血・血栓分野で、von Willebrand 病や VWF の研究に従事され、昭和 59 年から 3 年間、米国 NIH-Forgaty 国際奨学生としてカリフォルニア州にある Scripps Clinic and Research Foundation に留学され、VWF 研究の第一人者であった Theodore S. Zimmerman 博士の指導下に「VWF の構造と機能解析」の研究に従事し、「VWF 分子内に血小板膜糖蛋白 GPIb に結合するドメインを同定する」などの優れた成果を上げられました。このドメインは現在「VWF-A1 ドメイン」と称され、「動脈血栓症の治療標的」になっています。

帰国後は、本学附属病院輸血部において、VWF 特異的切断酵素である ADAMTS13 活性の安定した測定系を確立し、血栓性微小血管症 (TMA) に包含される TTP そして非典型溶血性尿毒症症候群 (aHUS) などの血液難病について、全国の多数例の解析を通じたコホート研究を行い、その診断や治療の進歩に多大な貢献をされ、基礎医学研究の臨床への応用を示されました。

大学を退官後は、奈良県赤十字血液センター所長、その後、日本赤十字社近畿ブロック血液センター所長として、血液事業にも貢献され、また日本輸血・細胞治療学会では近畿支部長として、また第 62 回学術総会の会長を務められ、同学会の活動にも貢献されました。

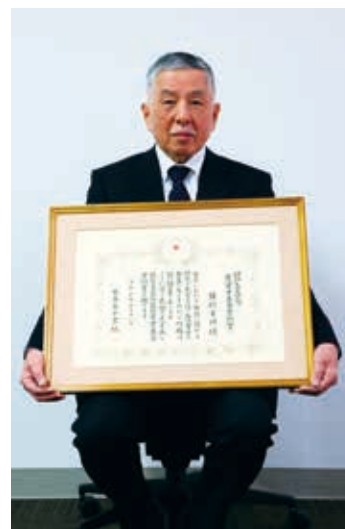
先生の研究に対する意欲は大学卒業後半世紀を経た今も続いており、近畿ブロック血液センターを退任後も同センターの特別研究員、そして奈良医大輸血部・血液内科の博士研究員として、他の研究者達との議論を通じて発表や執筆などの活動を行なっておられます。先生のこの長期に渡る研究継続のモチベーションは「研究とは神が作ったパズルを解くことで、exciting である」とのコンセプトから来ているそうです。最近上梓された日本輸血・細胞治療学会雑誌の総説「温故知新：輸血部での「異端児」から「風雲児」へ」(<https://doi.org/10.3925/jjtc.70.548>) には先生のこれまでの研究者人生が簡潔にまとめられています。



授与された記念トロフィー。彫刻は「桐竹鳳凰」で、このモチーフは明治 20 年に日本赤十字社が創立された時、社長の佐野常民に明治天皇のお妃である昭憲皇太后がお垂髪に飾る簪をお示しになったもので、現在の社章デザインになっています。



秋篠宮皇嗣妃殿下より昭和天皇記念学術賞を御授与



授与された表彰状と藤村名誉教授

Winner Report

9.6

第45回日本食品微生物学会 学術総会 優秀発表賞

公衆衛生学 教授 今村 知明

第45回日本食品微生物学会におきまして、演題「食品容器・包装表面の溶出液における新型コロナウイルスのモデルウイルスを用いた生残性評価」が優秀発表賞を受賞致しました。

本研究は厚労科研「新型コロナウイルス感染症対策に取組む食品事業者における食品防御の推進のための研究」の一環として行われ、食品容器・包装表面の溶出物における新型コロナウイルス生残性に関する因子の推定を目的とし、紙製品のにじみ防止材に使用される成分およびプラスチック表面の研磨剤が感染性ウイルスの生残性に影響を及ぼす因子である可能性を示しました。

本演題の受賞に際しまして、ご協力を賜りました共同演者の皆様、研究班と本研究に関わっていただいた全ての方々に感謝申し上げます。



9.16

第24回CRCと臨床試験のあり方を考える 会議において優秀演題賞を受賞しました

臨床研究センター 橋村 かなえ

令和6年9月15日～16日に開催された「第24回CRCと臨床試験のあり方を考える会議 2024 in Sapporo」において、「患者と治験・臨床試験を繋ぎたい！CRCができるがんゲノム医療支援」を発表し、優秀演題賞を受賞しました。

遺伝子変異に紐づく臨床試験の情報は、患者の今後の治療に関わる貴重な情報であり、CRCが関わることでより適切な情報を担当医師にお返しできるよう多職種と連携し取り組んでおります。CRCがエキスパートパネルに参加している施設は少なく、当院での取り組みを他施設へ発信しようと考えました。

一般演題214演題の中から選出いただき大変光栄に存じます。

ご指導いただきました当センター長の笠原先生や腫瘍内科教授の武田先生をはじめ、関連部門の皆様にご心より感謝申し上げます。

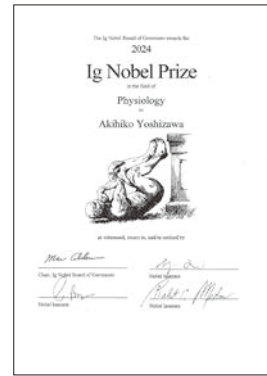


9.19

イグ・ノーベル生理学賞を 受賞しました

病理診断学 教授 吉澤 明彦

“腸で呼吸！”、この奇抜な研究で本年度のイグ・ノーベル賞を受賞いたしました。私は当時京都大学呼吸器外科におられた芳川豊史先生（現名古屋大学呼吸器外科教授）にお声がけをいただき、病理医として加わらせていただきました。大学院生であった岡部亮先生の臨床医としての発想力、それを具体化した東京科学大の武部貴則教授の研究者としての展開力に圧倒され、とてもよい経験となりましたが、本学でも多くの先生方の研究のご協力をさせていただければと思っています。



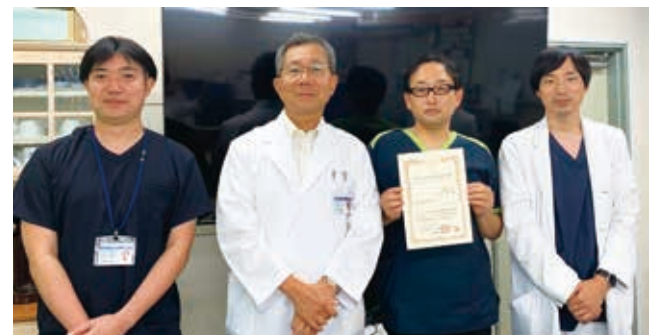
同時受賞した芳川教授（左）とともに

9.28

第121回日本消化器病学会近畿支部 例会で専修医奨励賞を受賞しました

消化器内科学 医員 米田 健人

この度、第121回日本消化器病学会近畿支部例会の専修医奨励賞（JSGE Junior Resident Award）を受賞いたしました。受賞演題は「消化器症状を契機に診断された多発血管炎性肉芽種症の一例」です。本症は上気道、肺、腎の3症状が特徴的ですが、本症例は下痢、血便等の消化器症状を主座とし、稀で貴重な症例でありました。発表に際しご指導いただきました吉治教授並びに花谷先生、佐藤講師をはじめ、多くの先生方に厚く御礼申し上げます。本受賞を励みに今後の日常臨床・研究に精進して参りたい所存です。



10.19

第35回日本急性血液浄化学会学術集会で Best Presentation Award を受賞しました

腎臓内科学 診療助教 岡本 恵介

この度、10月19日から20日に開催された第35回日本急性血液浄化学会学術集会において、「本邦の持続的腎代替療法における年齢と血液浄化量が生命予後に与える影響の検討」を発表し、Best Presentation Award を受賞しました。本研究では、当院集中治療室において持続的腎代替療法を受けた急性腎障害患者の後ろ向きコホートをを用い、現行の日本の保険診療に基づく血液浄化量が年齢によるリスクを相殺している可能性について考察しました。また、本邦での血液浄化量の決定方法に関する課題も提起しました。ご指導・ご協力を賜りました皆様に、この場をお借りして心より感謝申し上げます。



10.24

第65回日本脈管学会学術総会で臨床部門の最優秀演題賞を受賞しました

放射線診断・IVR学 講師 岩越 真一

第65回日本脈管学会学術総会で「EVAR後の腹部大動脈瘤を対象としたMRI mapping画像のradiomics解析による瘤径増大危険因子の評価」をテーマとし、臨床部門の最優秀演題賞を受賞しました。様々な方の協力を得て研究出来、このような賞を受賞でき大変光栄に存じます。本研究課題は、大動脈ステントグラフト内挿術後の瘤径拡大に寄与する因子をradiomics解析という方法で研究したものです。Radiomics解析は、ヒトの「感覚的」な画像の解釈を定量的に評価する解析手法であり、具体的には瘤内の血栓状態を評価することができました。結果、瘤内の血栓が不均一であるほど、瘤が増大しやすいことが判明し、今後の治療方針などに大きく寄与すると期待しています。



学会での授賞式にて左より3番目 岩越 真一（放射線診断・IVR学講座 講師）

11.2

日本プライマリ・ケア連合学会 新家庭医療専門医試験 優秀賞受賞

総合医療学 医員 田口 浩之・阪本 宗大

この度、日本プライマリ・ケア連合学会の2024年度新家庭医療専門医試験において田口 浩之が口頭試問部門、阪本 宗大が臨床実技試験 模擬患者評価部門で優秀賞を受賞しました。新家庭医療専門医は、日本プライマリ・ケア連合学会が認定する専門医試験で、2021年に専門医機構が新設した総合診療医の取得後にさらに家庭医療の研修を行い受験する資格です。さらに本試験は2024年7月にWorld Organization of Family Doctors (WONCA) に正式に認証され、国際標準の総合診療医・家庭医の養成に資する専門資格となりました。その記念すべき第一回の試験で優秀賞を受賞できたことを大変光栄に思います。ご指導いただいた吉本教授を始め多くの先生方に厚く御礼申し上げます。引き続き奈良県の総合診療、家庭医療の質向上に資する医師となるべく一層精進して参ります。



11.12

武田科学振興財団研究助成金を受賞しました

整形外科学 医員 宮本 拓馬

この度、「統計的形状モデルを用いた荷重時足・足関節における筋骨格3次元形態評価の構築」を研究テーマとして、2024年度武田科学振興財団 医学系研究助成(200万円)を受賞しました。このような賞をいただき大変光栄に存じます。本研究課題では、足・足関節における骨の3D形態評価のみならず、筋肉の3D形態評価ならびに、骨と筋肉の3Dアライメント評価を行い、疾患の病態解明および新たな治療法、予防法の開発につなげていけたらと思います。本受賞を励みとし、今後も研究を推進してまいります。またこの場をお借りして、これまで御指導いただいた多くの皆様に厚く御礼申し上げます。



Winner Report

11.23

日本臨床麻酔学会第44回大会で 最優秀演題賞を受賞しました

侵襲制御・生体管理医学 博士課程 佐藤 真理子

この度、11月21日～23日に開催されました、日本臨床麻酔学会第44回大会において最優秀演題賞を受賞しました。

受賞演題は「外科医、麻酔科医へのプレハビリテーションに関するアンケート調査：多施設共同研究」です。手術を受ける患者さんの状態を最適化して、術後の回復を促進するための取り組みであるプレハビリテーションに関する調査を実施し問題点などを抽出しました。

本受賞を励みとし、患者さんのために多職種連携ができるよう、臨床研究に一層精進して参りたいと思います。ご指導いただきました川口昌彦教授、位田みつる先生、また、アンケートにご協力いただきました外科医、麻酔科の皆様にご心より感謝申し上げます。



11.24

第69回日本口腔外科学会総会・学術大会 において口演発表賞を受賞しました

口腔外科学 医員 新子 寿末

11月22日から24日にかけて開催された第69回日本口腔外科学会総会・学術大会において、「Risk Factors for Post-Extraction Bleeding in Hemophilia Patients: A Multicenter Retrospective Cohort Study」を発表し、口演発表賞を受賞しました。本研究は、これまでで最大規模の症例数を対象とした血友病患者における抜歯後出血リスク因子に関するコホート研究です。そして、統計解析から、血友病A患者におけるエミズマブを用いた定期補充療法が、後出血を抑制し、従来よりも止血管理を容易にする可能性が示唆されました。

今回の受賞に際し、本研究にご協力いただいた多施設の先生方に深く感謝申し上げます。また、直接ご指導を賜りました柳生先生、そして多大なるご助力をいただいた山川先生、桐田名誉教授に深謝いたします。



11.28

令和6年度奈良県医師会学術奨励 賞を受賞しました

奈良県医師会館において、令和6年度奈良県医師会学術奨励賞の受賞式が執り行われました。奈良県医師会学術奨励賞は、奈良県における若き医学徒の学術を奨励するために、医師会会員歴1年以上の40歳未満、かつ有意義な研究成果をあげ、後進の指導にも熱意を有する者に奈良県医師会より贈呈される賞です。

本学からは、産婦人科学の2名の先生方の受賞の決定がありました。

本学術奨励賞は、毎年6月頃に応募案内をしております。若手研究者の方々の積極的なご応募をお待ちしております。

(受賞者) 産婦人科学 助教 山中 彰一郎

産婦人科学 助教 杉本 澄美玲



山中助教



杉本助教

12.9

第29回奈良新聞文化賞を 受賞しました

理事長・学長 細井 裕司

このたび、第29回奈良新聞文化賞を受賞いたしました。本賞は、奈良県内の文化・芸術・スポーツなど、各分野で活躍する個人や団体に贈られるものです。

2004年に従来から知られた気導、骨伝導と異なる第3の聴覚経路「軟骨伝導」を発見。以降、その研究成果を活かした「軟骨伝導イヤホン」の開発に取り組んでまいりました。本製品は高齢者や難聴者の福祉向上に役立つとともに、自治体や金融機関の窓口にも導入が進んでいます。今回の受賞を機に、さらなる研究の深化と技術の普及を目指し、軟骨伝導の可能性を世界へ広げていきたいと考えております。



令和6年度 外部資金獲得状況

181件 701,575,949円 (間接経費を含む) (令和6年12月1日現在) ※文部科学省科学研究費助成事業を除く

(1) 厚生労働科学研究費補助金・子ども家庭科学研究費補助金

① 研究代表者

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
地域医療基盤開発推進研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	将来の医療需要を踏まえた外来及び在宅医療の提供体制の構築のための研究
政策科学総合研究事業 (政策科学推進研究事業)	公衆衛生学	教授	今村 知明	レセプト情報・特定健診等情報を用いた医療保健事業・施設等のエビデンス構築等に資する研究
エイズ対策政策研究事業	公衆衛生学	准教授	野田 龍也	HIV感染症及びその併存疾患や関連医療費の実態把握のための研究
医薬品・医療機器 レギュラトリーサイエンス政策研究事業	血液内科学	教授	松本 雅則	科学的エビデンス等に基づき医療環境に応じた適切な輸血療法実施についての研究
障害者政策総合研究事業	精神医学	教授	岡田 俊	強度行動障害を有する知的・発達障害に関わる医療従事者向け研修プログラム開発に向けた研究
地域医療基盤開発推進研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	地域の実情に応じた医療提供体制の構築を推進するための政策研究
食品の安全確保推進研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	新型コロナウイルス感染症拡大収束後の食品等事業者の新たな営業形態にも対応した食品防衛の推進のための研究

② 研究分担者

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名	研究代表者
地域医療基盤開発推進研究事業	公衆衛生学	准教授	野田 龍也	将来の医療需要を踏まえた外来及び在宅医療の提供体制の構築のための研究	公衆衛生学 今村 知明
		助教	西岡 祐一		
		博士研究員	次橋 幸男		
		非常勤講師	明神 大也		
政策科学総合研究事業 (政策科学推進研究事業)	公衆衛生学	准教授	野田 龍也	レセプト情報・特定健診等情報を用いた医療保健事業・施設等のエビデンス構築等に資する研究	公衆衛生学 今村 知明
		助教	西岡 祐一		
		非常勤講師	明神 大也		
エイズ対策政策研究事業	小児科学	教授	野上 恵嗣	HIV感染症及びその併存疾患や関連医療費の実態把握のための研究	公衆衛生学 野田 龍也
	リハビリテーション医学	准教授	萩原 建一		
地域医療基盤開発推進研究事業	公衆衛生学	准教授	野田 龍也	地域の実情に応じた医療提供体制の構築を推進するための政策研究	公衆衛生学 今村 知明
		助教	西岡 祐一		
		非常勤講師	明神 大也		
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策 総合研究事業	呼吸器内科学	教授	室 繁郎	慢性閉塞性肺疾患患者における加熱式たばこの経年的な肺機能への影響に関する前向き観察研究	高知大学 横山 彰仁
慢性的痛み政策研究事業	ペインセンター	病院教授	渡邊 恵介	痛みセンターを中心とした慢性疼痛診療システムの均てん化と診療データベースの活用による医療向上を目指す研究	福島県立医科大学 矢吹 省司
新興・再興感染症及び予防接種政策 推進研究事業	感染症内科学	教授	笠原 敬	成人の侵襲性細菌感染症サーベイランスの強化のための研究	国立感染症研究所 明田 幸宏
地域医療基盤開発推進研究事業	公衆衛生学	准教授	野田 龍也	地域医療構想を踏まえた救急医療体制の充実に関する研究	日本体育大学 横田 裕行
医薬品・医療機器等 レギュラトリーサイエンス政策研究事業	薬剤部	部長	池田 和之	医療機器等におけるより高度な医療安全のためのバーコードの活用に関する研究	亀田医科大学 舟越 亮寛
障害者政策総合研究事業	精神医学	教授	岡田 俊	療育手帳の交付判定及び知的障害に関する専門的な支援等に資する知的能力・適応行動の評価手法の開発のための研究	中京大学 辻井 正次
地域医療基盤開発推進研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	公的に標準化された医療情報を活用した感染症流行状況と一般診療状況を把握するための分析手法の開発および評価方法に関する研究	藤田医科大学 佐藤 大介
		准教授	野田 龍也		
		非常勤講師	明神 大也		
健康安全・危機管理対策総合研究事業	疫学・予防医学	教授	佐伯 圭吾	保健所における健康危機管理対応の推進等に関する研究	浜松医科大学 尾島 俊之
成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業	NICU	助教	谷 有貴	ドナーミルクを必要とする児に普及するために必要なエビデンスを構築するための研究	昭和大学 水野 克己
厚生労働科学特別研究事業	公衆衛生学	非常勤講師	明神 大也	NDB 研究支援体制の実践的検証研究	産業医科大学 村松 圭司
政策科学総合研究事業 (統計情報総合研究事業)	公衆衛生学	教授	今村 知明	ICD-11 の適用を通じて我が国の死因・疾病統計の向上を目指すための研究	摂南大学 小川 俊夫
がん対策推進総合研究事業	産婦人科学	教授	木村 文則	小児・AYA 世代がん患者に対するがん・生殖医療における心理社会的支援体制の構築と安全な長期検体保管体制の構築を目指した研究-サブパイプライン向上を志向して	聖マリアンナ医科大学 鈴木 直
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策 総合研究事業	疫学・予防医学	教授	佐伯 圭吾	予防・健康づくりのための住環境整備のための研究	北海道大学 林 基哉
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策 総合研究事業	公衆衛生学	准教授	野田 龍也	糖尿病の実態把握と発症予防・重症化予防のための研究	東京大学 山内 敏正
難治性疾患政策研究事業	脳神経内科学	教授	杉江 和馬	希少難治性筋疾患に関する調査研究	東北大学 青木 正志
難治性疾患政策研究事業	脳神経内科学	教授	杉江 和馬	自己免疫疾患に関する調査研究	北海道大学 渥美 達也
難治性疾患政策研究事業	疫学・予防医学	教授	佐伯 圭吾	難治性血管炎の医療水準・患者 QOL 向上に資する研究	順天堂大学 田村 直人
難治性疾患政策研究事業	血液内科学	教授	松本 雅則	血液凝固異常症等に関する研究	金沢大学 森下 英理子
難治性疾患政策研究事業	皮膚科学	教授	浅田 秀夫	重症多形滲出性紅斑に関する調査研究	新潟大学 阿部 理一郎
難治性疾患政策研究事業	糖尿病・内分泌内科学	教授	高橋 裕	成長障害・性分化疾患を伴う内分泌症候群(アラダーウイリ症候群・ヌーナン症候群を含む)の診療水準向上を目指す調査研究	大阪母子医療センター 川井 正信
難治性疾患政策研究事業	糖尿病・内分泌内科学	教授	高橋 裕	間脳下垂体機能障害に関する調査研究	東京女子医科大学 大月 道夫

Winner Report

難治性疾患政策研究事業	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	教授	北原 紘	難治性聴覚障害に関する調査研究	信州大学 宇佐美 真一
難治性疾患政策研究事業	循環器内科学	教授	彦惣 俊吾	特発性心筋症の診断・ゲノム情報利活用に関する調査研究	大阪大学 坂田 泰史
難治性疾患政策研究事業	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	助教	森本 千裕	先天性および若年性の視覚聴覚二重障害の難病に対する医療と支援に関する研究	国立病院機構 東京医療センター 松永 達雄
	眼科学	講師	西 智		
難治性疾患政策研究事業	脳神経内科学	教授 医員	杉江 和馬 眞野 智生	スモンに関する調査研究	国立病院機構鈴鹿病院 久留 聡
肝炎等克服政策研究事業	消化器内科学	教授	吉治 仁志	肝がん・重度肝硬変の医療水準と患者のQOL向上等に資する研究	東京大学 小池 和彦
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	疫学・予防医学	教授	佐伯 圭吾	睡眠時間・睡眠休養感の確保に影響する就寝環境・生活習慣の客観的評価手法および適切な睡眠取得のための介入・環境整備法の開発	国立精神・神経医療研究センター 栗山 健一
難治性疾患政策研究事業	整形外科	准教授	谷口 晃	早老症の医療水準向上と予後改善を目指す集学的研究	千葉大学 前澤 善朗
難治性疾患政策研究事業	泌尿器科学	博士研究員	鳥本 一匡	間質性膀胱炎の患者登録と診療ガイドラインに関する研究	東京大学 本間 之夫
難治性疾患政策研究事業	公衆衛生学	准教授	野田 龍也	難病の克服に向けた研究推進と医療向上を図るための戦略的統括研究	浜松医科大学 安井 秀樹
免疫・アレルギー疾患政策研究事業	公衆衛生学	准教授	野田 龍也	アレルギー疾患医療の質および経年推移の可視化と、アレルギー疾患対策基本法に基づく政策的介入効果の評価法の開発に関する研究	国立病院機構二重病院 長尾 みづほ
長寿科学政策研究事業	リハビリテーション医学	教授	城戸 頌	訪問系サービスにおける LIFE の活用に向けた評価指標の開発に資する研究	国立保健医療科学院 赤羽 学
	消化器内科学	博士研究員	赤羽 たけみ		
	公衆衛生学	助教	西岡 祐一		
		博士研究員	次橋 幸男		
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策 総合研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	循環器病対策の進捗評価法の確立を目指した研究	国立循環器病研究センター 飯原 弘二
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策 総合研究事業	循環器内科学	教授	彦惣 俊吾	我が国における心血管疾患の回復期および維持期の診療の現状と課題	鳥取大学 山本 一博
免疫・アレルギー疾患政策研究事業	公衆衛生学	准教授	野田 龍也	季節性アレルギー性鼻炎の診療実態と経済的影響等の解明のための研究	千葉大学 岡本 美孝
障害者政策総合研究事業	公衆衛生学	准教授	野田 龍也	育成医療対象疾患の実態把握に関する研究	国立成育医療研究センター 笠原 群生
厚生労働科学特別研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	看護職員の需給推計方法の妥当性の検証と推計のためのシナリオの検討	山梨大学 小林 美亜
		准教授	野田 龍也		
新興・再興感染症及び予防接種政策 推進研究事業	公衆衛生学	准教授	野田 龍也	新興・再興感染症のリスク評価とバイオテロを含めた管理機能の実装のための研究	国立感染症研究所 齋藤 智也
新興・再興感染症及び予防接種政策 推進研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	特別臨時接種終了・定期接種化を見据えた国産新型コロナウイルスワクチンを含むコホート研究	順天堂大学 伊藤 澄信
		准教授	野田 龍也		
エイズ対策政策研究事業	小児科学	教授	野上 恵嗣	HIV 感染症および血友病におけるチーム医療の構築と医療水準の向上を目指した研究	大阪医療センター 渡邊 大
難治性疾患政策研究事業	公衆衛生学	非常勤講師	明神 大也	指定難病患者データベース・小児慢性特定疾病児童等データベースと各種公的データベースの連結手法および連結データ利活用法の検討	京都大学 森 由希子

(2) 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)

① 研究代表者

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
肝炎等克服実用化研究事業	消化器内科学	教授	吉治 仁志	肝硬変予後不良因子に対する vWF-ADAMTS13 制御に基づいた病態解析と治療開発
脳神経科学統合プログラム	未来基礎医学	准教授	森 英一朗	相分離破綻に起因する神経変性疾患に関する研究開発
革新的がん医療実用化研究事業	がんゲノム・腫瘍内科学	教授	武田 真幸	MET 阻害剤に獲得耐性を示した MET 遺伝子変異陽性進行非小細胞肺癌に対するカボザンチニブの第 2 相試験
障害者対策総合研究開発事業	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	教授	北原 紘	慢性めまいの層別化治療と治療装置開発に関する研究
革新的先端研究開発支援事業	解剖学第二	講師	田中 達英	内臓痛の新規センシング機構の解明と治療法開発
医薬品等規制調和・評価研究事業	皮膚科学	教授	浅田 秀夫	薬剤性間質性肺炎および重症薬疹の新規診断バイオマーカーの適格性確認に関する研究
難治性疾患実用化研究事業	生理学第二	講師	坂野 公彦	疾患モデルオンチップ血管網によるステージ・ウェーバー症候群の異常脳血管の再現と病態解明
難治性疾患実用化研究事業	血液内科学	教授	松本 雅則	抗 ADAMTS13 阻害抗体による後天性 von Willebrand 症候群の治療法の開発
難治性疾患実用化研究事業	循環器内科学	講師	尾上 健児	劇症型心筋炎の予後改善を目指した病態解明・データベース構築・AI 診断ツールの研究開発
「統合医療」に係る医療の質向上・科学的根拠収集研究事業	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	講師	岡安 唯	腎虚の耳鳴りに対する牛車腎気丸の有効性に関する臨床研究のプロトコール作成のための研究
橋渡し研究プログラム	血液内科学	教授	松本 雅則	備蓄・緊急投与が可能な人工赤血球製剤の医師主導治験
革新的先端研究開発支援事業ユニットタイプ「ストレスへの応答と疾病発症に至るメカニズムの解明」	生化学	教授	中村 修平	リンソームストレス応答の破綻による神経・金疾患発症機序の解明と超早期バイオマーカー開発

② 研究分担者

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名	研究代表者
肝炎等克服実用化研究事業	消化器内科学	准教授	鍛冶 孝祐	ACLF および CSPH の病態における vWF/ADAMTS13 の役割解析に関する基礎的検討	消化器内科学 吉治 仁志
		学内講師	西村 典久	ACFL マウスモデルに対する rADAMTS13 製剤の効果に関する基礎的検討	
		助教	辻 裕樹	ACFL に対する rADAMTS13 製剤療法 (医師主導治験)	
		診療助教	芝本 彰彦	CSPH に対する低用量 α B 遮断薬 +ADAMTS13 製剤併用療法 (医師主導治験)	
	肝炎患相談センター	特任准教授	浪崎 正	AKI に対するアルブミン製剤 +rADAMTS13 製剤併用療法 (医師主導治験)	
	地域医療支援・教育学	講師	佐藤 慎哉	CSPH マウスモデルに対する rADAMTS13 製剤の効果に関する基礎的検討	
	血液内科学	教授	松本 雅則	rADAMTS13 製剤に投与に伴う ADAMTS13 インヒビターの動態解析	
臨床研究センター	准教授	浅田 潔	rADAMTS13 製剤投与に伴う肝再生・血管新生因子の動態解析		

革新的がん医療実用化研究事業	がんゲノム・腫瘍内科学	学内講師	大田 正秀	MET 阻害剤に獲得耐性を示した MET 遺伝子変異陽性進行非小細胞肺癌に対するカボゾニチニブの第 2 相試験	がんゲノム・腫瘍内科学 武田 真幸
障害者対策総合研究開発事業	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	特任講師	和田 佳郎	臨床研究用装置の治療効果・層別化に関する研究	耳鼻咽喉・頭頸部外科学 北原 紘
	臨床研究センター	特任講師	井上 隆	臨床研究用装置の臨床統計に関する研究	
	産学官連携推進センター	研究教授	梅田 智広	臨床研究用装置の実用化に関する研究	
難治性疾患実用化研究事業	未来基礎医学	准教授	森 英一朗	ヒト化 A10 の製造方法の検討	血液内科学 松本 雅則
難治性疾患実用化研究事業	循環器内科学	講師	酒井 和哉	劇症型心筋炎の予後改善を目指した病態解明・データベース構築・AI 診断ツールの研究開発	循環器内科学 尾上 健児
		教授	彦惣 俊吾		
		博士研究員	斎藤 能彦		
「統合医療」に係る医療の質向上・科学的根拠収集研究事業	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	講師	山下 哲範	腎虚の耳鳴りに対する牛車腎気丸の有効性に関する臨床研究のプロトコール作成のための研究	耳鼻咽喉・頭頸部外科学 岡安 唯
	臨床研究センター	助教	五十川 雅裕		
	医員	北野 公一			
橋渡し研究プログラム	輸血部	講師	酒井 和哉	Phase 1b 試験の実施	血液内科学 松本 雅則
	化学	教授	酒井 宏水	治験薬 GMP 製造	
	小児科学	教授	野上 恵嗣	流動条件下における血液凝固系への影響の研究	
	臨床研究センター	教授 准教授	笠原 正登 浅田 潔	Phase 1b 実施体制の構築	
難治性疾患実用化研究事業	皮膚科学	教授	浅田 秀夫	スティーヴンス・ジョンソン症候群および中毒性表皮壊死症の新規重症度予測スコアの開発とガイドラインへの反映	新潟大学 濱 菜摘
肝炎等克服実用化研究事業	消化器内科学	教授	吉治 仁志	肝硬変症に対するリハビリテーション医療の確立、筋肉再生-肝臓修復機構の解析を通じた新たなバイオマーカーの探索	新潟大学 寺井 崇二
予防・健康づくりの社会実装に向けた研究開発基盤整備事業ヘルスケア社会実装基盤整備事業	臨床研究センター	講師	倉上 弘幸	Personal Life Record (PLR) と専門職の知見を組み合わせたヘルスケアサービスの社会実装を促進する研究プロセスとデザインのフローの可視化	大阪大学 山川 みやえ
革新的先端研究開発支援事業	生化学	教授	中村 修平	細胞内膜動態によるプロテオスタシス制御の理解：健康長寿の実現に向けて	大阪大学 吉森 保
難治性疾患実用化研究事業	未来基礎医学	助教	五十樓 規嘉	液-液相分離制御破綻に着目した筋萎縮性側索硬化症における運動ニューロン障害の分子病態解明に関する研究開発	徳島大学 齋尾 智英
成育疾患克服等総合研究事業	産婦人科学	講師	前川 亮	体外受精卵(胚)の着床率向上を目的とした胚のタイムラプス画像機械学習に基づく良好胚および正常核型胚スクリーニング法の開発	山口大学 杉野 法広
エイズ対策実用化研究事業	免疫学	教授	伊藤 利洋	ART 早期化と長期化に伴う日和見感染症への対処に関する研究	国立国際医療研究センター 照屋 勝治
肝炎等克服実用化研究事業 肝炎等克服緊急対策研究事業	消化器内科学	教授	吉治 仁志	インターフェロンフリー治療が C 型肝炎患者の予後を含めたアウトカムに与える影響を明らかにする研究	大阪大学 竹原 徹郎
革新的がん医療実用化研究事業	臨床研究センター	講師	倉上 弘幸	生細胞染色 CTS (Click-to-sense) 法を用いた乳がんの乳房温存手術の切除断端に対する術中迅速診断の確立	大阪大学 多根井 智紀
エイズ対策実用化研究事業	小児科学	教授	野上 恵嗣	血友病が抱える課題の解決を目指した新規治療法・診療体制の創出	自治医科大学 大森 司
革新的がん医療実用化研究事業	小児科学	講師	石原 卓	小児から成人をシームレスに対象とした B 前駆細胞性急性リンパ性白血病に対する前方視的臨床試験による標準治療の開発研究	埼玉県立小児医療センター 康 勝好
難治性疾患実用化研究事業	循環器内科学	講師	尾上 健児	小児から成人に移行する慢性心筋炎の診断基準策定のための実態調査	三重大学 今中 恭子
難治性疾患実用化研究事業	循環器内科学	講師	尾上 健児	日本循環器研究コンソーシアムによる難治性心血管疾患のエビデンス創出	国際医療福祉大学 小室 一成
ゲノム医療実現バイオバンク利活用プログラム	循環器内科学	講師	尾上 健児	マルチオミックス連関による循環器疾患における次世代型精密医療の実現	東京大学 小室 一成
ゲノム医療実現バイオバンク利活用プログラム	循環器内科学	講師	尾上 健児	循環器疾患におけるシングルセルマルチオミックス層別化の実現	東京大学 小室 一成
新興・再興感染症研究基盤創生事業(多分野融合研究領域)	免疫学	講師	北畠 正大	抗ウイルス機能に優れた T 細胞を誘導する人工 T 細胞抗原の開発	熊本大学 本園 千尋
次世代がん医療加速化研究事業	脳神経外科学	博士研究員	中澤 務	悪性脳腫瘍の高度治療抵抗性を克服する次世代 ADC の開発	東京医科歯科大学 持田 祐希
脳神経科学統合プログラム	精神医学	博士研究員	牧之段 学	免疫細胞による精神病理の操作を目指して	神戸大学 内匠 透
次世代がん医療加速化研究事業	緩和ケアセンター	准教授	西尾福 英之	アスタチン-211 と金マイクロスフィアを用いた IVR 手法による原発性および転移性肝がんの局所内放射線治療の研究開発	福島県立医科大学 鷗山 幸信
医療機器等における先進的研究開発・開発体制強化事業	放射線診断・IVR 学	非常勤講師	穴井 洋	がんの低侵襲治療のアウトカム最大化を目指した埋込型医療機器の研究開発	株式会社 Medseed 吉田 泰之
医工連携・人工知能実装研究事業	精神医学	博士研究員	牧之段 学	AI 技術を活用した統合失調症の早期診断医療機器プログラムの開発	国立精神・神経医療研究センター 橋本 亮太
成育疾患克服等総合研究事業	小児科学	助教	榊原 崇文	新生児低酸素性虚血性脳症の早期重症度診断法の開発	国立精神・神経医療研究センター 伊藤 雅之
障害者対策総合研究開発事業	精神医学	教授	岡田 俊	マイレージストリの縦断データを活用した新規治療法開発と薬事承認の実現	国立精神・神経医療研究センター 竹田 知良
革新的先端開発支援事業ユニットタイプ「ストレスへの応答と疾病発症に至るメカニズムの解明	脳神経内科学	教授	杉江 和馬	リソソームストレス応答の破綻による神経・金疾患発症機構の解明と超早期バイオマーカー開発	生化学 中村 修平
医療機器等研究成果展開事業 開発実践タイプ	血液内科学	博士研究員	堀内 久徳	小腸カプセル内視鏡診断支援プログラムに関する研究開発	京都府立医科大学 井上 健
成育疾患克服等総合研究事業	精神医学	教授	岡田 俊	児童・思春期におけるオンラインメンタルヘルスケアシステム (KOKOKOROBO-Junior) の開発と社会実装	国立精神・神経医療研究センター 竹田 知良
難治性疾患実用化研究事業	血栓止血医学薬生物学	助教	坂田 飛鳥	アンチトロンビン欠乏症に対する二重特異性 DNA アプタマー薬の開発	東京大学 吉本 敬太郎

(3) 国立研究開発法人 科学技術振興機構

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名	研究代表者
戦略的創造研究推進事業(科学技術振興機構) JST さきがけ	生理学第一	准教授	眞部 寛之	嗅皮質情報統合地図の構築とその応用	生理学第一 眞部 寛之
創造研究支援事業(基金)研究タイプ「創発的研究支援」	発生・再生医学	助教	長岡 創	「卵子の「質」構築を理解し、再建へつなげる次世代卵子の創出」	発生・再生医学 長岡 創
創造研究支援事業(基金)研究タイプ「創発的研究支援」	生理学第二	講師	坂野 公彦	「Vessel-on-a-chip とゲノム編集がもたらすヒト脈管疾患の解明」	生理学第二 坂野 公彦

Winner Report

戦略的創造研究推進事業（科学技術振興機構） JST チーム型研究（CREST）	精神医学	博士研究員	岡崎 康輔	仮想エージェントによる個人適応された情動社会スキルの訓練	奈良先端科学技術大学院大学 中村 哲
--	------	-------	-------	------------------------------	-----------------------

(4) 関西スタートアップアカデミア・コアリション

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
大学発新産業創出基金事業（基金）	役員	教育・研究 担当理事	嶋 緑倫	スタートアップ・エコシステム共創プログラム 関西スタートアップアカデミア・コアリション（KSAC）

(5) 株式会社国際電気通信基礎技術研究所

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
安全保障技術研究推進制度委託事業	腎臓内科学	教授	鶴屋 和彦	体内精密情報デジタルツインシステム

(6) 名張市

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
伊賀・奥宇陀地域脳疾患等医療体制整備に関する調査事業	脳神経外科学	博士研究員	中瀬 裕之	伊賀・奥宇陀地域脳疾患等医療体制整備に関する調査事業

(7) 公益財団法人エイズ予防財団

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
エイズ中核拠点病院相談事業	感染症内科学	教授	笠原 敬	HIV 感染者等保健福祉相談事業

(8) その他 財団法人等

団体名等	所属	職名	氏名	研究課題名
公益財団法人 旭硝子財団	健康管理センター	講師	山室 和彦	AMPK activator の自閉症モデルへの効果とその作用機序の解明
一般財団法人 リディアオリリー記念 ピアス皮膚科学振興財団	皮膚科学	准教授	新熊 悟	Col7 モザイク欠損モデルを用いた表皮基底膜の再構築機序と上皮化の解明
ジンマー・バイオメット合同会社	整形外科	助教	黒川 紘章	学術集会発表のための準備に関わる費用補助
公益財団法人 ニッポンハム食の未来財団	臨床研究センター	講師	武内 治郎	野菜摂取と学童期の食物アレルギー：腸内細菌を含む網羅的コホート研究
公益財団法人 武田科学振興財団	整形外科	診療助教	宮本 拓馬	統計的形状モデルを用いた荷重時定・定関節における筋骨格 3 次元形態評価の構築
公益財団法人 武田科学振興財団	脳神経内科学	助教	七浦 仁紀	遺伝性精神神経疾患の神経変性機序の解明
公益財団法人 戸部眞紀財団	整形外科	診療助教	宮本 拓馬	3次元足部筋骨格形態及びアライメントが足部アーチ機能に与える影響
公益財団法人 武田科学振興財団	輸血部	講師	酒井 和哉	先天性血栓性血小板減少性紫斑病の潜在的な微小血栓形成に対して腸内細菌叢が及ぼす影響
公益信託 宮田幸比古記念ALS研究助成基金	脳神経内科学	助教	七浦 仁紀	孤発性 ALS における相分離異常の解明とその制御による治療法開発
一般社団法人 日本癌治療学会	消化器・総合外科学	助教	中村 広太	生体内における癌進化ダイナミクスモニタリングを目的とした脾癌分子サブタイプ関連遺伝子エクソソームリキッドバイオプシーの開発
センチュリーメディカル株式会社	脳神経外科学	教授	中川 一郎	頸動脈プラークに対するスタチンはプラークを安定させるか—NIRS による分布の変化—
ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社	胸部・心臓血管外科学	准教授	濱路 政嗣	高悪性度胸腺上皮性腫瘍のリンパ節サンプリングに関する前向き臨床研究
一般社団法人 日本血栓止血学会	輸血部	講師	酒井 和哉	日本人免疫原性血栓性血小板減少性紫斑病の発症に関与するアレル拘束性 T 細胞エピトープの同定及び抗原提示における免疫学的解析
一般社団法人 日本血栓止血学会	小児科学	特任助教	小田 朗永	血友病 A マウスモデルを用いた脾臓内・外からの高力価インヒビター消失法の開発
一般社団法人 日本血栓止血学会	血栓止血先端医学	助教	三谷 成二	血友病 A 細胞治療に向けたヒト iPS 細胞由来肝臓細胞の純化技術の開発
一般社団法人 日本血液学会	血栓止血分子病理学	講師	下西 成人	血友病 B モデルマウスを用いた治療選択の最適化
一般社団法人 日本血液学会	小児科学	特任助教	小田 朗永	脾臓プラズマ細胞ニッチからの血友病 A インヒビター産生制御機構の解明
公益財団法人 金原一郎記念医学医療振興財団	生化学	教授	中村 修平	オートファジーの加齢変容による発がん機構の解明
アカデミスト株式会社	血栓止血先端医学	博士研究員	小野寺 悠	血友病 A 根治を目指した FVIII 産生 iPS 細胞の創出と移植評価
公益財団法人 医療科学研究所	救急医学	医員	山本 幸治	救急医療の質向上に資する地域の救急医療データの連結と利活用推進に関する研究
一般社団法人 日本血液学会	輸血部	講師	酒井 和哉	急性期後天性血栓性血小板減少性紫斑病におけるフォンウィルブランド因子重合体の動的変化と血栓イベントとの関連解析
一般社団法人 日本血液学会	血液内科学	講師	久保 政之	本態性血小板血症における血栓および出血リスクの新規評価法の探索—血流条件下での血栓形成能の包括的評価
公益財団法人 マルホ・高木皮膚科学振興財団	皮膚科学	教授	浅田 秀夫	薬剤過敏症候群における HHV-6 再活性化機序の解明
ジンマー・バイオメット合同会社	リハビリテーション医学	准教授	稲垣 有佐	学術集会発表のための準備に関わる費用補助
一般社団法人 日本看護研究学会	小児看護学	講師	山田 晃子	発熱した子どもへの保護者の対処力向上のための基礎的研究
コヴィディエンジャパン株式会社	胸部・心臓血管外科学	准教授	濱路 政嗣	高悪性度胸腺上皮性腫瘍のリンパ節サンプリングに関する前向き臨床研究
公益財団法人 母子健康協会	血栓止血先端医学	助教	三谷 成二	ヒト iPS 細胞由来肝臓細胞の純化技術の開発と血友病 A 治療への応用
一般社団法人 日本小児血液・がん学会	小児科学	医員	大砂 光正	インヒビター保有 emicizumab 定期投与患者における新規止血治療の開発
公益財団法人 テルモ生命科学振興財団	脳神経外科学	博士研究員	中澤 務	複合的遺伝子ノックアウト NK 細胞による悪性脳腫瘍治療の開発
公益財団法人 上原記念生命科学財団	生化学	教授	中村 修平	リソソーム恒常性維持の分子機構と老化における役割の解明
公益財団法人 先進医療研究振興財団	脳神経内科学	助教	七浦 仁紀	遺伝性精神疾患の治療基盤開発にむけた神経変性機構の解析
公益財団法人 上原記念生命科学財団	輸血部	講師	酒井 和哉	血栓性血小板減少性紫斑病における腸内細菌叢の攪乱
公益財団法人 上原記念生命科学財団	脳神経外科学	医員	森本 堯之	ヒト、マウスグリオーマモデルに対する細胞免疫療法
公益財団法人 内視鏡医学研究振興財団	胸部・心臓血管外科学	助教	山梨 恵次	ベッドサイドでも施行可能な内視鏡的低侵襲気胸治療の開発
公益財団法人 中島記念国際交流財団	脳神経内科学	助教	七浦 仁紀	精神神経疾患の細胞内環境のダイナミクス理解とその制御
一般社団法人 日本小児心身医学会	臨床研究センター	講師	武内 治郎	学童期の食生活は不登校に影響を及ぼすか？：他施設共同前向きコホートサブ解析探索的研究
公益財団法人 中外創薬科学財団	生化学	教授	中村 修平	損傷リソソーム応答の破綻による老化の機序解明
公益財団法人 ライフサイエンス振興財団	オートファジー・ 抗老化研究センター	講師	井本 ひとみ	オートファジーの活性変動による肝がん発症メカニズムの解明
公益財団法人 高松宮妃癌研究基金	生化学	教授	中村 修平	オートファジーの加齢変容による発がん機構の解明
一般社団法人 日本内分泌学会	糖尿病・内分泌内科学	教授	高橋 裕	新たな疾患概念 傍腫瘍性自己免疫性下垂体炎の病因・病態の解明

寄附者ご芳名

「未来への飛躍」基金にご協力いただきありがとうございました

平素より未来への飛躍基金へのご理解とご協力をいただき、心から御礼申し上げます。今号では令和6年10月～令和6年12月に
ご寄附いただいた方々のご芳名を掲載しております。

【個人】

◆100万円以上

秋田 雅弘 様 石倉 紀男 様 齊藤 正幸 様
仲澤 信江 様

掲載を希望されない寄附者様 1名

◆30万円以上100万円未満

浅田 秀夫 様 岩田栄一朗 様 笠原 正登 様
河村 健二 様 北野 浩行 様 倉井 信夫 様
小林 浩 様 小山 文一 様 杉江 和馬 様
高倉 義典 様 田中 利洋 様 田中 康仁 様
寺田 秀興 様 中谷 晃 様 中林 仁美 様
夏目 誠 様 長谷川英雄 様 畠山 金太 様
林 需 様 藤本 清秀 様 三上 洋 様
森永 太輔 様 八木 正躬 様 安田 周司 様
山上 裕章 様 山田 薫 様

掲載を希望されない寄附者様 5名

◆10万円以上30万円未満

浅田 潔 様 井内 清美 様 五十嵐稔子 様
生駒 一憲 様 石澤美保子 様 石田 仁志 様
石飛 悦子 様 泉 哲石 様 磯橋 文明 様
伊藤 利洋 様 茨木 透 様 岩田 正人 様
植村 信子 様 上山 健一 様 岡田 治 様
北原 紘 様 吉川 公彦 様 城戸 顕 様
桑原 理充 様 小泉 宗久 様 小森 浩幸 様
佐藤 林平 様 杉江 美穂 様 武内 治郎 様
千頭 敏史 様 中川 一郎 様 二階堂雄次 様
松山 善之 様 峯 克彰 様 村尾 佳則 様
室 繁郎 様 山田 優 様 若月 幸平 様

掲載を希望されない寄附者様 19名

◆10万円未満

浅井 達哉 様 浅川 勇雄 様 天野 雄介 様
井内孝太郎 様 岡田 俊 様 小川 佳宏 様
形岡 博史 様 川島 浩正 様 北村 紀文 様
小林 恭代 様 杉本 靖 様 高木 宏哲 様
多田 卓仁 様 田中 秀明 様 谷口 昌彦 様
鶴田 啓亮 様 玉井 涉 様 西澤 秀美 様
西村 忠己 様 細川 彰子 様 本田 孝雄 様
松井 勝 様 松本 雅充 様

掲載を希望されない寄附者様 31名

◆金額の公表を希望されない寄附者様

石郷岡政広 様 石指 宏通 様 粕田 承吾 様
川上あずさ 様 桐田 忠昭 様 工藤 利彩 様
黒田 一成 様 澤見 一枝 様 杉本 靖 様
杉山 友悦 様 竹川 隆 様 辰巳 公平 様
浪崎 正 様 西村 徳重 様 彦惚 俊吾 様
福留 賢二 様 堀江 恭二 様 三浦 幸子 様
三浦 太士 様 美登路 昭 様 藪本 明広 様
勇井 克也 様 吉川真由美 様 吉治 仁志 様

【奈良県立医科大学 総務広報課 未来への飛躍基金】

TEL : 0744-22-3051 (内線 2803) E-mail : hiyakukikin@narmed-u.ac.jp

【未来への飛躍基金 HP】 <https://hiyakukikin.narmed-u.ac.jp> または「未来への飛躍基金」で検索！



Media Listing Information

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、記事を掲載された教職員・学生を紹介します。

	日付	媒体	対象者	掲載概要
2024年	7月1日 7月2日	共同通信 日本経済新聞	臨床研究センター 化学 血液内科学 附属病院長 吉川 公彦 教授 笠原 正登 教授 酒井 宏水 教授 松本 雅則	本学附属病院での備蓄・緊急投与が可能な人工赤血球製剤の第一相臨床試験実施について
	8月1日 8月5日 8月5日 8月9日 8月19日 9月1日 9月10日	サイエンスポータル 週刊プレイボーイ 中央日報 朝鮮日報 時事通信 東亜日報 PRISM	臨床研究センター 化学 血液内科学 教授 笠原 正登 教授 酒井 宏水 教授 松本 雅則	本学附属病院での備蓄・緊急投与が可能な人工赤血球製剤の第一相臨床試験実施について
	9月19日	信濃毎日新聞デジタル	病理診断学 教授 吉澤 明彦	哺乳類、お尻からも呼吸できるーイグ・ノーベル賞研究チーム 長野県出身の大学教授もメンバー
	10月20日	朝日新聞	疫学・予防医学 特任准教授 大林 賢史	光害特集記事で健康影響について解説
	10月31日	時事メディカル	皮膚科学 教授 浅田 秀夫	ワクチンで予防可能～加齢とともに増える帯状疱疹～
	11月9日	読売新聞	臨床研究センター 化学 血液内科学 教授 笠原 正登 教授 酒井 宏水 教授 松本 雅則	本学附属病院での備蓄・緊急投与が可能な人工赤血球製剤の第一相臨床試験実施について
	11月19日	日本経済新聞	理事長・学長 細井 裕司	モンベル、奈良医大と協定 製品開発などで協力
	11月19日	読売新聞	理事長・学長 細井 裕司	若者や高齢者の健康増進へ協定 県立医大とモンベルなど
	11月25日	日本経済新聞		障害者 病院にも活躍の場 奈良県立医大が先進地に 特性生かす仕事で自信
	11月28日	Medical Tribune	呼吸器内科学 講師 谷村 和哉	『喘息予防・管理ガイドライン』の改訂ポイント
	12月3日	m3.com	臨床研究センター 化学 血液内科学 教授 笠原 正登 教授 酒井 宏水 教授 松本 雅則	本学附属病院での備蓄・緊急投与が可能な人工赤血球製剤の第一相臨床試験実施について
	12月6日	読売新聞	公衆衛生学 教授 今村 知明	機能性食品 安全確保へ一歩 消費者庁対策見直し
	12月10日	奈良新聞	理事長・学長 細井 裕司	奈良新聞文化賞授賞式
	12月11日	奈良新聞	理事長・学長 細井 裕司	奈良新聞文化賞 受賞者の横顔
	12月16日	DIME	臨床研究センター 化学 血液内科学 教授 笠原 正登 教授 酒井 宏水 教授 松本 雅則	本学附属病院での備蓄・緊急投与が可能な人工赤血球製剤の第一相臨床試験実施について
	12月18日	朝日新聞デジタル	皮膚科学 教授 浅田 秀夫	帯状疱疹、痛みで寝たきりも あるきっかけで若い世代にも急増／帯状疱疹ワクチン、来年度から定期接種へ 5年間は65歳以上対象

メディア掲載情報をお寄せください

総務広報課 内線：2206

編集後記

寒さの中にも少しずつ春の気配が感じられる季節となりました。年度末に向けて忙しい時期ですが、体調を崩さぬようご自愛ください。学報では、教職員の皆様からの記事を随時募集しています。掲載をご希望の方は総務広報課までご連絡ください。

